

# 聖徒の道

12  
1991



末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会

# 聖徒の道

1991年12月号



表紙——

キリストの降誕を祝う世界各国の置き物には、作られた国の文化や伝統がうかがえる。本誌「キリストの降誕」p.34参照。撮影スティーブ・バンダーソン。

子供のページ表紙——

撮影スティーブ・トリギーグル。

## 一 般

大管長会クリスマスメッセージ.....	1
大管長会メッセージ——イエス・キリスト 私たちの神、救い主 大管長エズラ・タフト・ベンソン .....	2
マリヤ イエスの母 スーザン・イーストン・ブラック .....	6
我が家を訪れたジョセフ・スミス ロレイン・リチャードソン .....	21
悪質ないたずらをされたときに ジーニー・ランカスター.....	22
とばりの価値 ブルース・C・ヘイフェン.....	26
キリストの降誕 .....	34
写真のように素晴らしいクリスマス M・C・オブライアント .....	40
3枚の硬貨 リチャード・A・ロブ.....	44
ボルツァノでのクリスマス パトリック・シャーン・ホプキンズ.....	46

## 青少年

約束 ラリー・A・ヒラー .....	10
忘れられないクリスマス レックス・D・ピネガー .....	18

## 定期特別記事

家庭訪問メッセージ——共に成長し、強め合う .....	25
-----------------------------	----

## こども

モルモン経物語——リムハイのたみのだっ出 .....	2
「わたしについてきなさい」 大管長会からのクリスマスメッセージ.....	4
歌 そのこはだれ .....	5
旅人の部屋 リーネット・K・アレン.....	6
分かち合いのき節 ジェフ・テイラー .....	9
予言者の服をあらった少女 ナンシー・B・フラー .....	10
分かち合いの時間——「あなた」というおくりもの ローレル・ロールフィング .....	12
ちいさなみんなのために——おわかれの時に ビバリー・ベベック・アルストローム .....	14
クリスマスクラフト コーリス・クレイトン .....	16

# 聖徒の道

1991年12月号

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン  
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット  
顧問：レックス・D・ピネガー、チャールズ・ディエイエ、ジョン・H・グローバーク、ロバート・E・ウエルズ  
編集長：レックス・D・ピネガー  
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイトン  
教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

## 国際機関誌

編集主幹：フライアン・K・ケリー

編集主幹補佐：マービン・K・ガードナー

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

編集補佐/こどものページ：ディエーン・ウォーカー

チーフアートディレクター：M・マサト・カワサキ

アートディレクター：スコット・D・バン・カンペン

デザイナー：シエリー・クック

制作：レジナルド・J・クリステンセン、ステイブ・テイトン、ジェーン・アン・ケンズ、デニス・カービー

工程管理：ダイアナ・パンスタブレ

配送部長：ジョイス・ハンセン

聖徒の道 1991年12月号第35巻第12号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 精興社/クロスロード

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約 1,100円(送料共)

普通号 150円、大会号 350円

International Magazine

ITEM 91992 300

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright © 1991 by The Church of

Jesus Christ of Latter-day Saints. All

rights reserved.

International Magazine, translated

into Japanese 1991.

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

## 大管長会 クリスマスメッセージ

**混**迷する世界の中でクリスマスを迎える私たちは、しばし歩みを止め、救い主イエス・キリストの福音だけが、地上の人類に平和をもたらす唯一の希望であることに、思いをはせます。

ベツレヘムの郊外で群れを見守る謙遜な羊飼いたちに、ひとりの天使が次のようなメッセージを宣べ伝えました。「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。」(ルカ2:10-11)

するとおびただしい天の軍勢が、この天使と一緒に、神を賛美しました。「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心になう人々に平和があるように。」(ルカ2:14)

すべてのキリスト教徒が、主イエス・キリストの降誕を祝うこの栄えある時節を、私たちも皆さんと共に、喜びたいと思います。福音の原則に従った生活だけが、永遠の平和と人類の福利につながるただひとつの確実な道です。すべての人々が決意を新たに、そうした生活に自らを捧げることができるよう、このクリスマスの季節に私たちは願い、祈っています。

### 大管長会

エズラ・タフト・ベンソン

ゴードン・B・ヒンクレイ

トーマス・S・モンソン

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year, \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Seito No Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.



# イエス・キリスト ——私たちの神, 救い主

大管長  
エズラ・タフト・ベンソン

**世**界の歴史上、最も重要な出来事、それはイエス・キリストの誕生です。アダムアダムの時代に始まり、バプテスマのヨハネの時代に至るまで、約4,000年もの間、信仰深い男女は、イエス・キリストの誕生に関する予言が成就する日を待ち望んでいました。多くの予言者が、この出来事について予言を残しました。いけにえ、象徴、しるし、これらを通してイエス・キリストの誕生が予告されたのです。

イエス・キリストの誕生は、ほかに類を見ないものでした。なぜなら母親は死すべき体を持った人間でしたが、父親はそうではなかったからです。聖典の中には、イエス・キリストの父親がどなたであったのか、明らかにされています。

「神の御子おんこは……マリヤから生れたもう。マリヤは神ちからの能力に覆われ、聖霊のちからによって懐妊かいにんし、男の子すなわち神の御子である方を生むはずの処女おとめであって、選ばれた貴い器である。」(アルマ7:10。下線付加)

そうです、イエス・キリストの肉における父親は神だったのです。そして、死すべき肉体を有する処女マリヤが母親となったのです。このことから、イエス・キリストは「神の独り子」という称号で呼ばれるにふさわしい唯一のお方であるということがわかります。

イエス・キリストの父親は神でした。だからこそ、死すべき体を有する人間がいまだかつて持ったことのない力を備えておられたのです。イエス・キリストは、肉体に宿られた神、すなわち神の御子だったのです。



イエス・キリストの母親は死すべき体を有する人間でしたが、父親はそうではありませんでした。肉における父親は神だったのです。

そのようなわけで、イエス・キリストは、聖典にも記されているとおり、数多くの奇跡を行なう力を持っておられました。死者を蘇生させ、足の不自由な人には歩く力を、目の不自由な人には見る力を与え、悪霊を追い出しました。また、私たちに福音を授けられました。この福音は、私たち人間が高い霊性をいつまでも維持していくための力を絶えず与えてくれる源となるものでした。イエス・キリストのみ言葉に耳を傾けてみましょう。「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」(ヨハネ4:14。下線付加)

また、このような聖句もあります。「このパンを食べる者は、いつまでも生きるであろう。」(ヨハネ6:58)

イエス・キリストは神、まさしく神の御子でした。だからこそ、ほかの人人の罪の重荷を背負うことができたのです。イザヤは、救い主がみずから進んでこのような犠牲を払われることを、次のような言葉で予言しました。

「まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。……彼はわれわれののがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」(イザヤ53:4-5)

あらゆる人々の罪をみずから進んでその身に引き受ける、というこの清く、私心のない行為こそが贖罪なのです。ひとりの人間が、どのような方法で全人類の罪の重荷を担うことができるのか、死すべき体を有する私たちには理解できません。ただ、私は次のことだけは知っています。すなわち、イエス・キリストは確かにあらゆる人々の

罪をその身に引き受けられたということ、また、そうされたのは私たち一人一人に対する限りない愛があったからだということです。主はこう言われました。「見よ、われは神なるに、人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために、すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。されど、人もし悔い改めずば誠にわれと同じ苦しみを受けざるべからず。その苦しむたるや、われ神、すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両つながら苦しめ、すなわちこの苦きさかずきより吞まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。」(教義と聖約19:16-18)

このような激痛を伴うにもかかわらず、イエス・キリストはこの杯を受け、飲み干されたのです。イエス・キリストは私たちが苦しまなくてもよいように、すべての人の苦痛を代わって受けられたのです。イエス・キリストは不平を漏らしたり、仕返しをしたりすることなく、迫害者からの辱めや侮辱を耐え忍ばれました。むち打ちの刑にも、さらには、十字架の刑という残酷極まりない屈辱にも耐え忍ばれました。

イエス・キリストは神、まさしく神の御子でした。だからこそ、復活の力を備えておられたのです。イエス・キリストは埋葬の後3日目に、墓から生きて出て来られ、多くの人々にそのみ姿を現わされました。当時、イエス・キリストに会った証人がいました。この末日の神権時代にも、イエス・キリストに会った証人が何人もいます。この現代にあって、特別な証人として召された者のひとりとして、私も皆さんに証いたします。イエス・キリストは生きておられます。復活体で生きておられるのです。私たちの主が文字どお

り復活されたという真理、この真理ほど私が確信を抱いている真理はほかにありません。私は救い主がみずから進んで、また限りない愛で成し遂げられた数々のことについて思い巡らすとき、敬虔と感謝の思いでいっぱいになります。その思いを次の賛美歌の歌詞に託して伝えたいと思います。

主イエスの愛に ただ驚く  
恵みの深きに われ感う  
罪人のため 十字架にて  
流されたる血に 身は震う

おごれるわれを 救うために  
み座を降りし 主に驚く  
かかるわれにまで 愛の手を  
主は差し伸べて 救いたもう

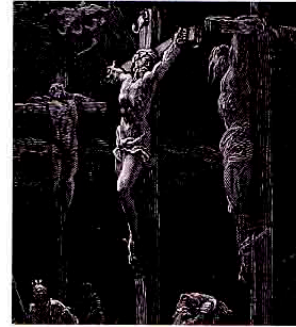
ああ、わがため主は死にたもう  
奇しきみ業  
ああ、奇しき主のみ業  
(『主イエスの愛に』賛美歌109番)

イエス・キリストは神、まさしく神の御子です。だからこそ、かつて約束されたとおりに、再臨されるのです。イエス・キリストは邪悪の時代、人々が「食い、飲み、めとり、とつぎなどして」(マタイ24:38)いる時代に來られます。

大きな変動と艱難の時代、全世界が揺れ動くとき(教義と聖約45:26参照)に來られます。

世の人々がまったく予期せぬときに、夜盗人が押し入るように(IIペテロ3:10参照)突然來られます。「されど、その日その時を知る者なし。天にある神の使たちも知らず、ただわが父のみ知りたもう。」(ジョセフ・スミス1:40)

私は、救い主に関するこれらの真理について証します。私は、イエス・キリストが私たちの主であることを知っ



イエス・キリストは神、  
まさしく神の御子でした。  
だからこそ、  
ほかの人々の罪の重荷を  
ご自身の身に  
引き受けることが  
できたのです。

ています。私は心からイエス・キリストを愛しています。私たちがいつも主を忘れないでいられるように、また主が私たちのためにみずから進んでくださった偉大なみ業を記憶にとどめられるようにお祈りいたします。(1979年12月21日、カリフォルニア州サンディエゴにおけるエズラ・タブ・ベンソン大管長の説教より引用)

□

#### ホームティーチャーへの提案

1. 世界の歴史上、最も重要な出来事、それはイエス・キリストの誕生である。
2. イエス・キリストの父親は神であった。だからこそ、死すべき体を有する人間がいまだかつて持ったことのない力を備えておられた。イエス・キ

リストは、肉体に宿られた神であった。

3. イエス・キリストは神であった。だからこそ、ほかの人の罪の重荷を背負うことができた。

4. イエス・キリストは神であった。だからこそ、復活の力を備えておられた。

5. イエス・キリストは神である。だからこそ、約束を違えることなく、再臨される。





# マリヤ イエスの母

スーザン・イーストン・ブラック

言葉と行ないにより、イエスの母マリヤは、  
真の弟子が備えるべき大切な特質を教えています。

**聖**典にはマリヤの生涯についてはほとんど記録されていません。しかし、残っているわずかな記録から、(1)マリヤが忠実に神のみ言葉に従ったこと、(2)神から賜った祝福に対する喜びを表わしたこと、(3)神についての証を得、主のみ使いから導きを受けたこと、そして(4)神の栄光を表わす子供を授かったことがわかります。マリヤの生涯の中に、すべての聖徒たちが従うべき義の模範を見いだすことができます。

## 神のみ言葉に忠実に従う

多くの予言者たちが、救いの計画におけるマリヤの非常に重要な役割についてすでに知っていました。古代の聖典の中にも、彼女の使命が記録されています。(イザヤ7：14；I ニーファイ11：13-20；モーサヤ3：8；アルマ7：10参照)

喜ばしい知らせを告げるために神から遣わされた天使ガブリエルを通して、マリヤは古代の予言を成就するのは自分であることを知りました。この天からの使者の言葉に関して、ジョセフ・スミス訳のルカによる福音書1章28節には、マリヤが恵まれたおとめであること、主が共におられること、そしてマリヤは女の中で選ばれ、祝

福された者であることが述べられています。

そのみ告げを聞いて、マリヤはただこう尋ねました。「どうして、そんな事があり得ましようか。わたしにはまだ夫がありませんのに。」(ルカ1：34)マリヤの質問は、遠慮や疑いの気持ちからではありませんでした。婚約者はいるものの未婚の彼女に、どうしてそんなことが起こるのか、本当に知りたかったのです。天使が訪れる以前から、マリヤは大工であるヨセフのいいなずけになっていましたが、まだ夫婦にはなっていませんでした。ユダヤ人の慣習によれば、それはただ、マリヤとヨセフが婚約の儀式(花嫁を聖別する儀式とも言われている)を受けていたという意味なのです。

マリヤの質問に対して、天使はこう答えました。「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。」(ルカ1：35)

この天からの使者を通して、マリヤは自分が神の子、つまり父なる神の生みたまえる、肉の幕屋をまといわれた独り子の母になることを知ったのです。この子供は、肉体的、精神的、霊的な特質をその両親、つまりひとりとは栄光に満たされた神、もうひとりとは死すべき体を持つ、ふさわしい祝福された女性から受け継ぐのです。

み使いの知らせを受けた後、マリヤは完全な従順さを示して答えました。「お言葉どおりこの身に成りますように。」(ルカ1:38)この母親となる機会を謙遜に受け入れることで、マリヤは真の弟子としての従順さを示しました。

### 神から賜わった祝福に対する喜びを表わす

天使が去ると、マリヤはナザレを出て、いとこのエリサベツのもとに行きました。このことを話せば、すぐに理解し、喜んでくれそうなただひとりの女性だったからです。バプテスマのヨハネを身ごもっている母親エリサベツが、人類の救い主を胎に宿している母親マリヤを歓迎すると、エリサベツは聖霊に満たされ、その子は胎内でおどりました。そしてマリヤが神の子の母になると証しました。マリヤもエリサベツに自分の喜びを素直に表現して言いました。「今からのち代々の人々は、わたしをさいわいな女と言うでしょう、力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださったからです。そのみ名はきよく……。」(ルカ1:48-49)

マリヤはそれからエリサベツに、神がユダヤの民の歴史を通じ、終始偉大な業をなされたことを話しました。マリヤは、神が心に留めてくださったことに対する喜びを謙遜な気持ちで表現しました。大いなる神が天使ガブリエルによってこのことを告げ知らせたので、マリヤはエリサベツと共に、母親になることを喜びました。(ルカ1:26-55参照)

### 神の証と主の使いたちの導きを受ける

天使のみ告げを受けた後、記録によればマリヤは最初にエリサベツを通して証を受けました。次に神からの証を受けたのは、婚約者であるヨセフを通じてでした。この証と、それに伴う導きを受けたのは、マリヤが身ごもったことについて、ヨセフが思い悩んでいたからでした。ヨセフがこのことを思い巡らしていると、夢の中で天使が現われ、マリヤに罪のないことを知らせました。天使はこう言いました。「ダビデの子ヨセフよ、心配しないでマリヤを妻として迎えるがよい。その胎内に宿っているものは聖霊によるのである。彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。」

(マタイ1:20-21)

マリヤと同じように、ヨセフもその導きに従い、「主の使が命じたとおりに、マリヤを妻に迎え」ました。(マタイ1:24)「子が生れるまでは、彼女を知ることはなかった。そして、その子をイエスと名づけた」(マタイ1:25)というヨセフの気高い人格から、高潔さだけでなく、その忠実で従順な特質をもうかがい知ることができます。

記録に残っている、神がマリヤに与えた3番目の証は、ベツレヘムで授けられました。マリヤとヨセフがナザレで結婚してからしばらくして、皇帝アウグストから人口調査をせよとの勅令が出されました。ユダヤ人は自分の先祖の町で登録をすることになり、ダビデ王の家系であるマリヤとヨセフも、エルサレムの南西約10キロの所にあるのどかな農村、ベツレヘムへと出発しました。

マリヤとヨセフがベツレヘムに着いてからイエスの誕生までのくらしい時間がたったのかはわかりませんが、「彼らがベツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた」(ルカ2:6-7)ことはわかっています。

それから間もなく、羊飼いたちが生まれたばかりの幼な子に会いにやって来て、神の子の証人となりました。この羊飼いたちは、最初のキリスト教の宣教師となり、すべての人々に見聞きしたことを告げ知らせたのです。

マリヤがその神の子について受けた証と教えの4つ目は、エルサレムの神殿で与えられたと、聖典には記されています。モーセの清めのおきてでは、女性は子供を産んでから40日間、神聖なものから離れていなければなりませんでした。(レビ12参照)その40日間の後、マリヤとヨセフは、イエスを神殿に連れて行きました。

神殿には、シメオンとアンナというふたりの証人がいました。シメオンは、「主のつかわす救主に会うまでは死ぬことはない」という示しを受けていました。(ルカ2:26)イエスを見たとき、彼は幼な子を腕に抱き、主を賛美してこう言いました。「主よ、今こそ、あなたはみ言葉のとおりこの僕を安らかに去らせてくださいます、わたしの目が今あなたの救を見たのですから。」(ルカ2:29-30)

シメオンはイエスの家族を祝福し、特にマリヤに、この子供の神聖な使命について証しました。また、幼な子の地上での苦しい経験について予言しました。そのときの予言についてジョセフ・スミス訳のルカによる福音書

2章35節には、イエスはやりで刺し貫かれ、マリヤ自身も心を刺し貫かれるだろうと述べられています。

シメオンの証をさらに明らかにしたのが、女子言者アンナでした。彼女は「神に感謝をささげ、そしてこの幼な子のことを、エルサレムの救を待ち望んでいるすべての人々に語りきかせ」ました。(ルカ2:38)

マリヤはまた、東方の博士たちの訪れを受けました。彼らは星に導かれて家に入り、そこで「母マリヤのそば



MARRIAGE AT CANA, BY LUCA GIORDANO

にいる幼な子に会い、ひれ伏して拝み」(マタイ2:11)しました。この訪れは、マリヤにとって、イエスの神聖な使命を証するもうひとつの出来事となりました。

これらのことから、マリヤには神の証と主のみ使いたちの言葉に喜んで聞き従う心と備えがあったことがわかります。このみ使いたちは、それぞれの立場から、マリヤが神のみ前に祝福された者であることを明らかにしたのです。マリヤは彼らのメッセージを受け入れて生活しました。彼女は生涯、一貫して忠実かつ従順に主を受け入れる態度を示しました。主のみ言葉をなおざりにせず「これらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらし」たのです。(ルカ2:19)

## 神の栄光を表わす子供を持つ

新約聖書には、マリヤの子である主が、マリヤにも敬意を払いながら、神の栄光を表わしたことが繰り返し記されています。たとえば、過ぎ越しの祭りの後、マリヤはエルサレムでイエスを捜したとき、神殿の中で彼を見付け、こう尋ねました。「どうしてこんな事をしてくれたのです。ごらんなさい、おとう様もわたしも心配して、あなたを捜していたのです。」(ルカ2:48)このときマリヤはイエスを叱責したりはしませんでした。イエスが親を敬わなかったわけではなく、ただ天の父を敬っていたことを知っていたからです。

イエスが、天の父の栄光を表わしながらも、母親への敬意を明らかにされたもうひとつの例は、ナザレの隣の町カナで行なわれた婚礼の際にも見受けられます。その中でイエスは母親の言葉にこたえて、水をぶどう酒に変える奇跡を行ないました。(ヨハネ2:1-11参照)この奇跡の結果「弟子たちはイエスを信じた」のです。(ヨハネ2:11)

天父に栄光を帰し、私たち一人一人に救いをもたらすという使命のために、キリストが自分の母親に対する深い愛と尊敬を示すのをなおざりにされたことはありませんでした。聖典には、カルバリの丘で十字架にかかって苦しみながらも、イエスが母親の生活を心配されていたことがはっきりと書かれています。ヨハネは、「イエスの十字架のそばには、イエスの母……が、たたずんでいた」(ヨハネ19:25)と記しています。母親が弟子ヨハネのそばに立っているのをごらんになって、イエスは言いました。「『婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です。』それからこの弟子に言われた、『ごらんなさい。これはあなたの母です。』そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。」(ヨハネ19:26-27)

イエスの生涯は、神の栄光を表わすためのものでした。彼は伝道、贖い、死、そして復活についての古代の予言を成就したのです。イエスの生涯は、模範とすべき尊いものですが、イエスの母の生涯もまた、立派なキリストの弟子として心に留めるにふさわしいものだったと言えるでしょう。□

\*スーザン・イーストン・ブラック姉妹：ブリガム・ヤング大学教会歴史と教義クラス助教授。ブリガム・ヤング大学第11ステーク部扶助協会会長。

# 約束

せりふと歌でつづる救い主の  
降誕を祝うクリスマス物語

この話は朗読用に作られたものです。ひとりで朗読してもよいし、家庭の夕べなどで、家族や友人と一緒に朗読してもよいでしょう。

ひとりがナレーションを担当することもできるし、何人かで分担することもできます。

ここで提案されている歌の一部ないしは全部を歌い、さらにこの物語の精神にふさわしいものであれば、好きな歌を加えたり、入れ替えたりしてもよいでしょう。また、伴奏用にカセットテープに吹き込まれた賛美歌を利用することもできます。

## ラリー・A・ヒラー

アダムがエデンの園で誕生する前、ひとつの約束がなされました。それは救いと贖いの約束です。救い主また贖い主として約束されたお方は、私たちと同じ神の子でありながら、もっと偉大なお方でした。神の長子だったのです。

救い主は言われました。「父よ、御旨の成らんことを、栄光とこしえに父にあれ。」(モーセ4：2)「われここに在り、われを遣わしたまえ。」(アブラハム3：27)

やがて約束を信じ、主の救いにあず

かって御父のみもとに帰ることができると確信した神の息子娘たちは、ひとりまたひとりとこの地上にやって来ました。しかし、天父と一緒に過ごしていた日々のことを覚えているわけではありません。この地上は、救い主の約束がなければ、まったくの霊の暗やみでした。その約束が与えられていることを知らなければ、神の子供たちには希望すらなかったのです。

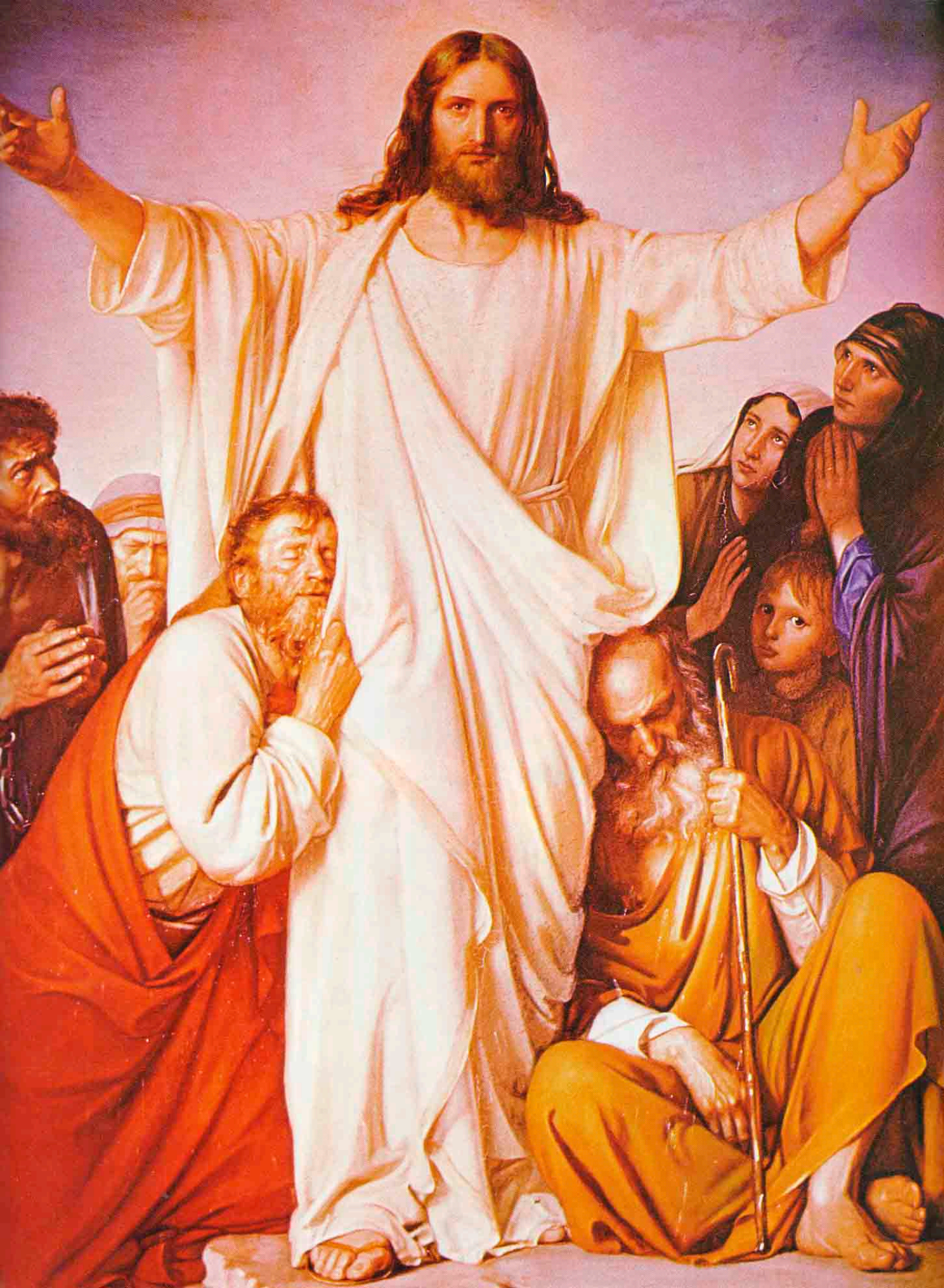
天から下る火のように、啓示の光が暗やみを照らしました。たいまつが次々に点火されていくように、アダムからエノクに至るまで、義人の心の中にはその約束の火が赤々と燃えていたのです。しかし、啓示の火が消えかかると、人々の心も冷え始め、希望も失せ、約束も忘れ去られていきました。

それでも、折にふれて天からともされたその啓示と希望の火は、予言者とその教えを信じる人々の心の中に燃え続けたのでした。

ノア、アブラハム、モーセ、ダビデといった予言者たちも、やがて霊の暗やみを照らす光の源、すなわち将来降臨するはずのキリストを示現で見ました。

「暗やみの中に歩んでいた民は大いなる光を見た。暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照った。

ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。……その名は、『霊妙





「ひとりのみどりごが  
われわれのために生れた、  
ひとりの男の子が  
われわれに与えられた。  
……その名は……  
『平和の君』ととなえられる。」



ABOVE, DETAIL FROM THE PROPHET ISAIAH FORETELLS CHRIST'S BIRTH, BY HARRY ANDERSON; LEFT, THE BIRTH OF JESUS, BY CARL HEINRICH BLOCH (USED BY PERMISSION OF THE FREDERIKSBORG MUSEUM)

なる議士、大能の神、とこしえの父、  
平和の君』ととなえられる。」(イザヤ  
9：2，6)

地球の反対側でも、同じように示現  
を見て予言した人々がいました。イテ  
ル、リーハイ、ニーファイ、アルマと  
いった予言者です。アルマはこう予言  
しています。「天国は近づきて、神の  
御子はいよいよ地上に降臨したまわん  
とす……。

神の御子は……エルサレムのあたり  
でマリヤから生れたもう。」(アルマ  
7：9—10)

予言の声に心励まされた信仰深い  
人々は、約束の日の到来を心待ちにし  
ました。約束の日を待つ祈りは何年も  
また何世代にもわたり捧げられたので  
す。

やがて、まるで宇宙の時間がその流  
れを止めたかと思われたそのとき、静  
寂の中から、約束を信じて希望を抱き  
続けてきた人々に主のみ声が注がれま  
した。「頭をあげよ。元気を出せ。予  
言の成就する時は近づきたり。今夜そ  
のしるし現わるべし。われは……明  
日世の中に来らん。」(III ニーフアイ  
1：13)

歌：賛美歌118番『聖し、この夜』

こうして約束されたその時が訪れ、  
神は汚れのない信仰を持つ予言者に語

り掛けられたのです。しかし、世の大  
半の人々はその声に耳を傾けようとも  
しませんでした。愚かにも、自分にと  
って大切だと思い込んでいる仕事にい  
そしんでいたのです。その目はローマ  
に、そして今ではすでにちりとなって  
いるものの、当時はおのれを神と呼ん  
でいたローマの支配者に注がれていま  
した。

「そのころ、全世界の人口調査をせ  
よとの勅令が、皇帝アウグストから  
出た。」(ルカ2：1)

しかし、たとえ世の大半の人々の目  
がローマに注がれていたとしても、天  
の目は別の町に注がれていました。予  
言者ミカはそのことを予言し、ニーフ  
アイもそれを示現で見っていました。や  
がてこの地上に来る日を心待ちにして  
いた無数の霊たちも、その中には私た  
ちもいましたが、希望と恐れの入りに  
まじった思いで静かにその小さな町を眺  
めていたことでしょう。

歌：賛美歌122番『ああ、ベツレヘムよ』

「人々はみな登録をするために、そ  
れぞれ自分の町へ帰って行った。

ヨセフもダビデの家系であり、また  
その血統であったので、ガリラヤの町  
ナザレを出て、ユダヤのベツレヘムと  
いうダビデの町へ上って行った。

それは、すでに身重になっていた



ABOVE, DETAIL FROM WISE MEN FROM THE EAST, BY HARRY ANDERSON; RIGHT, DETAIL FROM ANUNCIATION TO THE SHEPHERDS, BY CARL HEINRICH BLOCH (USED BY PERMISSION OF THE FREDERIKSBORG MUSEUM)

「頭をあげよ。元気を出せ。  
……われは……  
明日世の中に来らん。」

いなづけの妻マリヤと共に、登録をするためであった。

ところが、彼らがベツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。」(ルカ 2：3—7)

歌：賛美歌120番『天を降りし神の御子』

最初によきおとずれを聞いたのは、羊飼いたちでした。ローマにいて権勢を振るう皇帝アウグストでもなく、またヘロデ大王でもありませんでした。素朴で謙遜な羊飼いたちに、良き羊飼いの誕生の知らせが伝えられたのです。

「さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。

すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。

御使は言った、『恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生まれになった。このかたこそ主なるキリストである。

あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである。』

するとたちまち、おびたしい天の軍勢が現れ、御使と一緒に神をさんびして言った、

『いと高きところでは、神に栄光があるように、

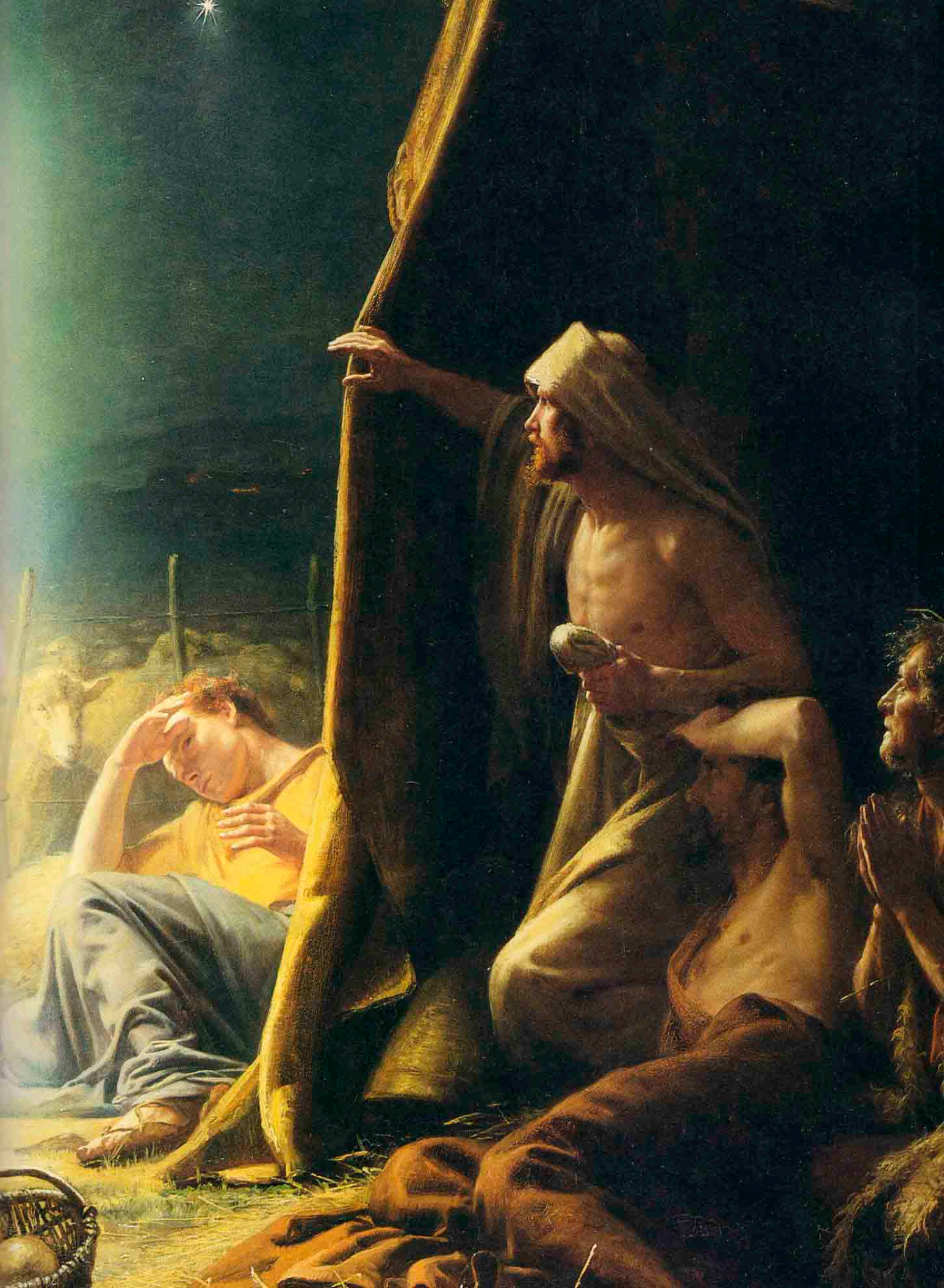
地の上では、み心にかなう人々に平和があるように。』(ルカ 2：8—14)

歌：賛美歌119番『み使い空に』、または賛美歌124番『羊飼いらが』、賛美歌121番『天なる神には』

み使いたちの歌声ですら、万物の感じた喜びを表現し尽くすことはできませんでした。また、天の言葉といえどもその喜びを十分に書き表わすことができなかったのです。だとしたら、人の声でその喜びを歌い上げ、あるいは人の言葉でその栄光を表現することができるのでしょうか。

皆さんも私も、あのみ使いたちの聖歌隊の中にいたのかもしれませんが。多分私たちもあの比類ない出来事を見守っていたのでしょう。しかし、今は忘却の幕が引かれていて、前世にいるときに見た出来事を思い出すことができずにいるのです。それでも、私たちの心の中には、みたまによって明るく照らされたあの約束が輝いています。だからこそ、声を張り上げ、また言葉を尽くして感謝の気持ちを歌い上げるのです。そして、涙がこぼれるのは、私







救い主は、かつて  
無邪気な幼な子としてこの世に生まれ、  
約束を成就された。  
そして将来、  
再び威厳と栄光を備えて  
この地上に來られると  
約束しておられる。



ABOVE, HEAVEN SCENE, BY HARRY ANDERSON © REVIEW AND HERALD PUBLISHING ASSOCIATION;  
LEFT, DETAIL FROM THE SECOND COMING, BY HARRY ANDERSON

たちの胸からあふれんばかりの思いを  
歌や言葉だけでは十分に表現できないた  
めなのでしょう。

歌：賛美歌116番『もろびと、こぞりて』

この約束は私たちにとって極めて重  
要な意味があり、今後その重要性はも  
っと深まるに違いありません。まだ成  
就していない約束が残っているからで  
す。

昔そうであったように、今の世の  
人々も、何も知らぬまま暗やみの中を  
歩んでいます。その目は世の指導者や  
国々に注がれています。しかし、昔そ  
うであったように、心の清い人々は神  
のみ声を聞き、それをはっきりと理解  
するはずで。そして、その目を天に  
向け、その心を希望で満たすに違いな  
いのです。

約束されたお方は確かにもう一度お  
いでになり、世を清め、祝福をもたら  
し、その主権を宣言されます。主が最  
初においでになったときの光景を忘れ  
ている私たちは、もう一度その光景を  
見るでしょう。そして再び声を張り上  
げて賛美の歌を歌うのです。空中で主  
をお迎えするために天に取り上げられ  
る人もいるでしょう。また、まるで彗  
星の尾のように、天から栄光と輝きと  
をもって下ってくる人もいるでしょう。  
こうして皆、喜びに満ちるのです。

だからこそ、希望を抱いて待ち望も  
うではありませんか。主は確かに救い  
と贖いとを約束してくださっているの  
です。

歌：賛美歌113番『いやしく生まれ』、  
または『主の來られるとき』（「CTR  
コース A」 pp.216-217）

主の來られるとき  
天使歌うか  
地には雪あるか  
それとも春  
ひとときわ輝く  
星はあるか  
やみは消え去るか  
鳥はどこに  
きつとエスさまは  
子供たちに  
「幼な児よ、  
われのもとに來よ」と

主の來られるとき  
備えあるか  
み顔を見上げて  
祈るために  
日々 主のみこころ  
努めてなす人が主の光  
みいだすよそのときエスさま  
子供たちをやさしくみ腕に  
いだかれるでしょう□

# 忘れられない クリスマス

七十人会長会  
レックス・D・ピネガー

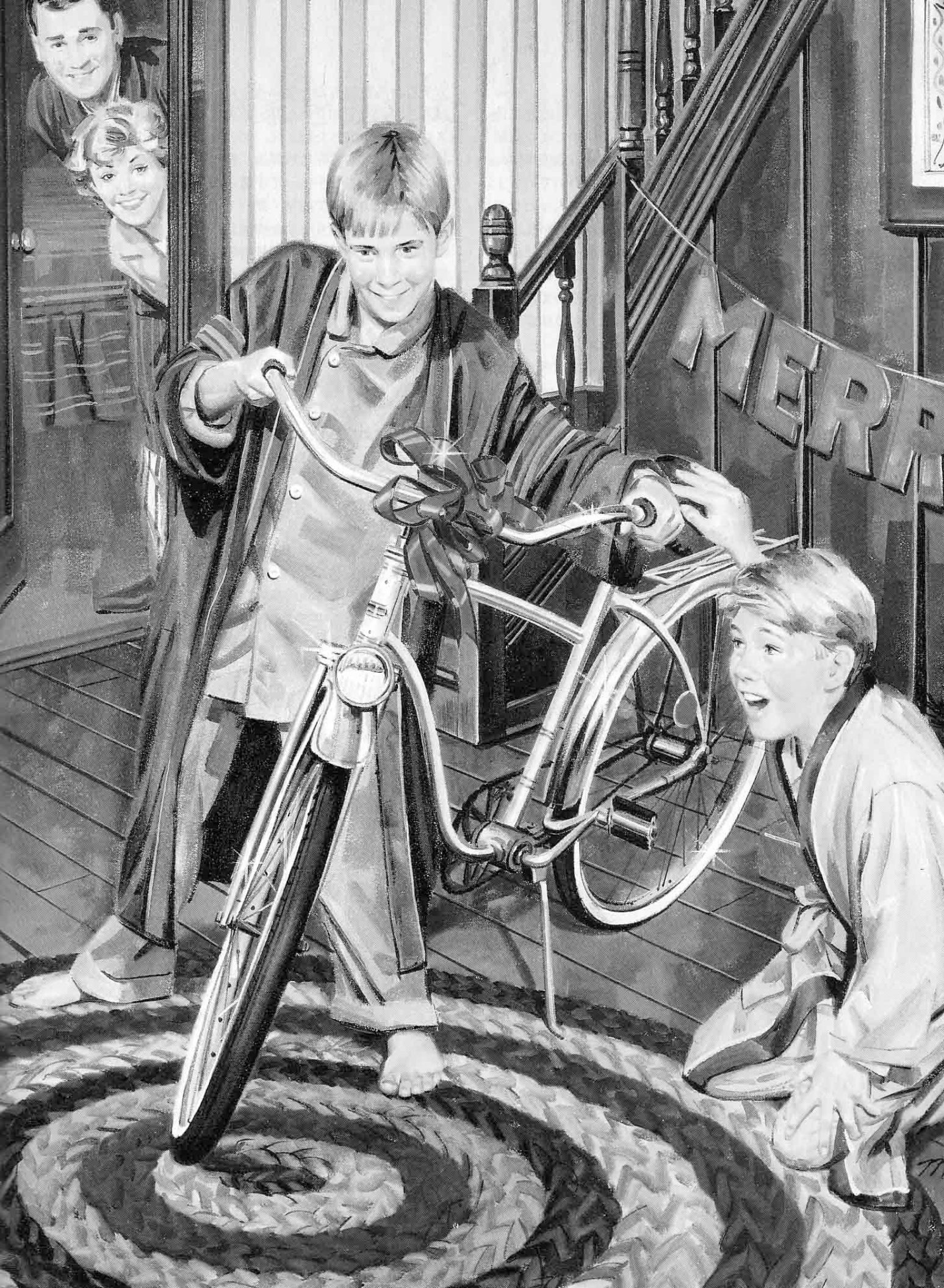
もうすぐクリスマスです。双子の兄と私は、サンタクロースは実在しないという事実がわかる年齢になっていました。どんなプレゼントにしる、みな両親が少ない収入の中から買ってくれるものなのです。我が家の家計ではいつもサンタクロースにあまり協力することはできませんでした。マックスと私は、クリスマスプレゼントを用意しなくてはならないという母の心配を軽くしようと決め、こう打ち明けました。「ぼくたち、本当はサンタクロースがいないってこと知ってるよ。」すると「あら、そうだったの」という返事が返ってただけでした。

クリスマスイブがやって来ました。家族みんなでクリスマスツリーを飾り、キャンディーやポップコーンボールを作り、手作りのプレゼントをツリーの下に置きました。父は私たちにベッドの中へ入るように言いました。それは「朝になって呼ばれるまではベッドの中でじっとしてなさい」という意味です。うれしさのあまり興奮が冷めず、笑い声を抑えながらマックスと私は長兄のリンについてベッドに入りました。何とか眠ろうと努力し、父からも再三言われて、やっとのことで皆寝付きました。

「もう7時15分だよ。居間へ行く時間だよ。」マックスの声で目が覚めましたが、あまり長く眠ったようには思えません。私たちがわいわい騒ぎ始めたので、父が起きてしまいました。台所のドアのところまで行くと、「まだ2時45分じゃないか」という迷惑そうな父の声が聞こえました。私たちは時計を逆さまに見ていたのです。ここですぐベッドに戻り、先程言われたとおり朝まで待たなくてはなりませんでした。

私たちが寝室に戻ろうとした正にそのときでした。薄暗い光の中、すばらしいものが見えたのです。暗がりの中で私たちは座り込み、思いもかけないプレゼントに顔を見合わせ口をそろえて言いました。「自転車だ！」自転車が1台しかないこと、外は雪が積もっていて自転車が走れる所はないこと、その自転車がだれへのプレゼントなのかふたりともわからないこと、そうしたことはすべて大した問題ではありませんでした。

私たちは何時間もそこに座っていたように思います。時計がカチカチと鳴る音を聞きながら、父の呼ぶ声を今か今かと待っていました。とうとう父が寝室から出てくる大きな足音が聞こえました。もちろん父は私たちを起



こそ必要はありません。

「サンタより双子たちへ」と書いた文字が目飛び込んできました。これまでに見たこともないすてきな自転車です。きれいなしま模様が入ったクリーム色の車体に、きらきら輝くクロムめっきのフェンダーがついています。ライトやかご、荷台、反射板、スプリングの入ったサドルなど、足りないものは何もありません。これが私たちのものだなんて信じられない思いです。間もなく兄弟皆で外へ飛び出し、雪の中で家の前の道路の雪かきをしました。雪かきがこんなに楽々とできたのは初めてです。真新しい自転車に乗るのは、手足の冷たさも気にならないほどこの上なく楽しいひとときでした。

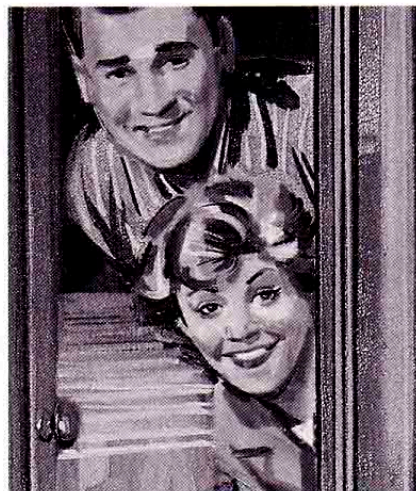
私は興奮して我を忘れ、このすばらしいクリスマスプレゼントに夢中になっていたため、クリスマスツリーの下にはほかの家族へのプレゼントがほとんどないことに気がつきませんでした。クリスマスプレゼント用の靴下の中には、つま先の部分にオレンジがひとつ、ナッツが少し、それにキャンディーがいくつか入っているだけでした。クリスマスのごちそうはというと、はちみつ入りのキャンディーと手作りのパウンドケーキだけでした。

その晩ベッドに入ると、マックスと私はその日の出来事、つまり自転車のことばかり話しました。自転車をどうやって使おうか、新聞配達をすることもできるし、夏休み中のアルバイト先に乗っていくこともできます。冬の間は通学に使えるし……アイデアはいくらでも浮かべられます。そのうちふと、疑問がわいてきました。一体あの自転車はだれがくれたのだろう。両親に自転車を買う余裕などあるはずがありません。当時は戦争中で物が不足していることも知っていました。こんなすてきな贈り物をくれたのは一体だれなのだろう。

それから数年もたたないうちに、私たちは心温まるすばらしい真実を知りました。あの忘れられないクリスマスは、愛情に満ちた母と兄、姉の犠牲と思いやりのおかげだったのです。兄は放課後、酪農場でアルバイトをし、姉は隣人の家事を手伝って小遣いをもらいました。母は収穫時に缶詰工場朝早く働いて得た収入を貯金しました。皆がふだんよりも余分に働き、自分の時間と収入とクリスマスプレゼントを犠牲にして、幼い双子のために特別なクリスマスを準備してくれたのです。ひそかに示してくれた家族の愛と犠牲を知り、あ那时的クリスマスの喜びは一段と大きなものとなりました。自分自身は一度も味わったことのない喜びを弟たちに与えようと願い、無私の気持ちで両親を助け、自分の行為に対して何の称賛も報酬も求めない兄や姉の心。これこそクリスマスの本当の精神と言えましょう。両親や弟たちに対するふたりの愛の模範を、かけがえのない貴重な宝として、私はいつも大事にしています。

ふたりの元気な少年が乗り回した自転車は、もうとっくに使い古されて壊れてしまいました。毎日使い、毎日楽しんだために、もはや輝きは失せてしまいました。けれども年月を経るにつれて、家族の間にあるキリストのような真実の愛は、なお一層輝きを増しています。

このような愛の行為の積み重ねによって、私たちの家族は様々な状況の中でその都度互いに助け合い支え合うきずなを強めてきました。家庭の中で教えられたイエス・キリストの福音の真実は、なんと大きな価値のあるものでしょう。それは私たちを強め、尽きることのない喜びと幸福をもたらし、それを実践していくならば、永遠に家族を結ぶきずなとなってくれるのです。□



# 我が家を訪れたジョセフ・スミス

ロレイン・リチャードソン

「ジョセフ・スミスの物語を劇にしてみたらどうだろう。」予言者の誕生日を記念する12月23日の家庭の夕べを計画しているときに、夫がこのような提案をしました。すぐ前の週にも、3人の子供たちが頭にタオルをかぶり、手に棒を持って全員で「羊飼い」の役を演じました。赤ん坊のイエスに見立てたお気に入りの人形の前にひざまずいた子供たちの、真剣で敬虔な姿を夫も私も忘れることができませんでした。——2歳になる子供などはそっと手を伸ばして人形をなでていました——そのようなわけで、家庭の夕べの活動として再び劇をすることにしました。

それから家庭の夕べの日まで、私たちは、ジョセフ・スミスの最初の示現の物語を子供たちと共に思い起こし、劇の役を割り当てました。

家庭の夕べの日がやって来ました。私たちはまず最初に、ジョセフ・スミス(2歳のマシュー)とスミス家の人々(マシュー以外の残り全員)に会いました。次に、ふたつの異なる部屋に入り、ジョセフとその家族が、ふたりの異なる説教者から話を聞くところを体験しました。夫と私で、交代に——最初の部屋では夫が、次の部屋では私が——説教者の役を演じました。説教をしない方が、それぞれ子供たちと一緒に歩きました。子供たちは、説教者の役を演じる両親の話を、目を大きく見開き、少々おどおどしながら、聞いていました。

次に、皆が居間に戻ったところで、夫がこのように質問しました。「さて、ジョセフ・スミスはどんな気持ちだったと思う? 『説教者の言うことはどうしてあんなに違っているんだろう、だれが正しいんだろう』と考え込んでしまったかもしれないね。どうだろう。」子供たちは、「きっとそうに違いないよ」と答えました。そこで夫はろうそくに明かりをともしました。まるで、ろうそくの明かりの下でヤコブの手紙1章5節を読むジョセフのすぐそばにいるような気持ちになりました。

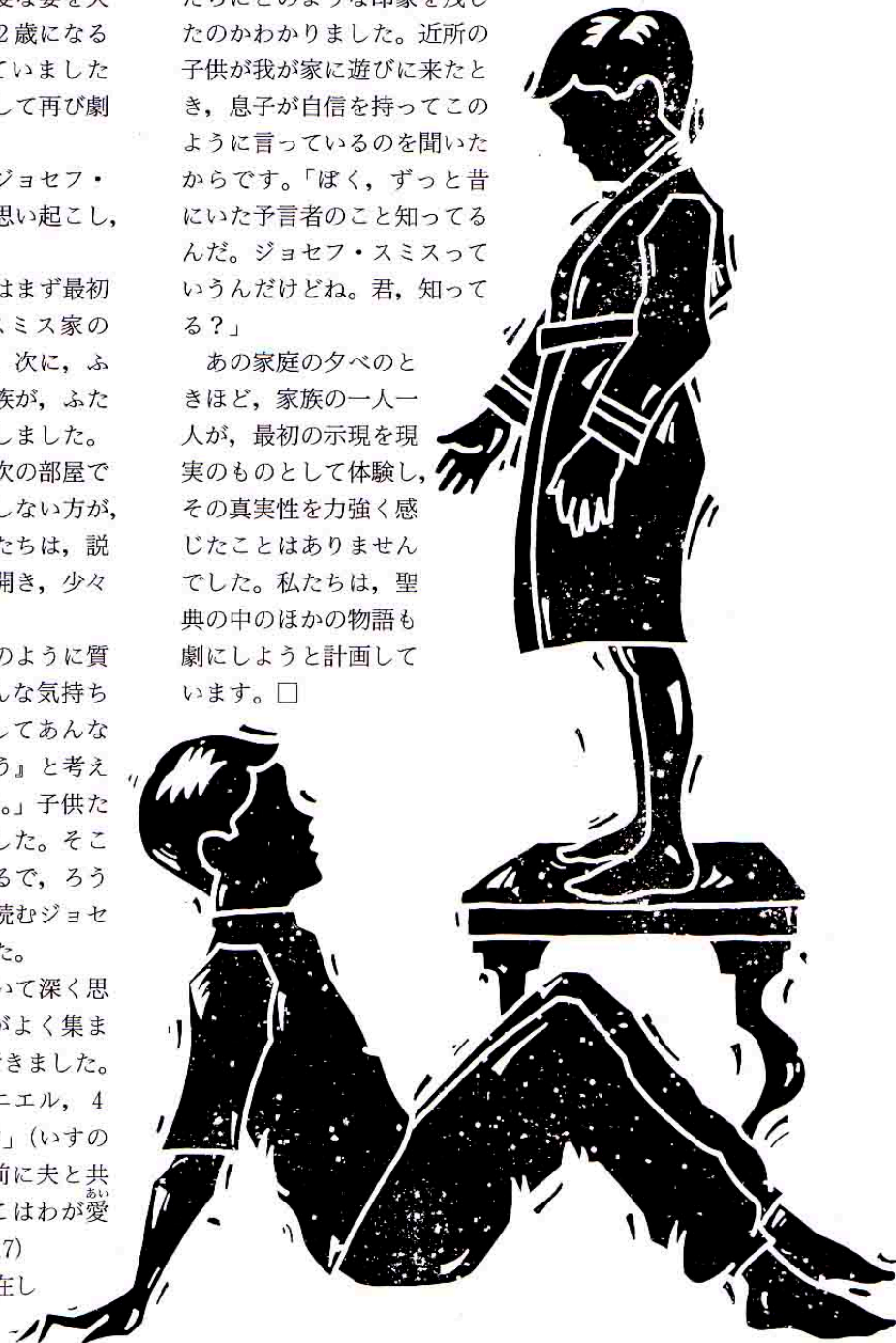
ジョセフを演じるマシューがその聖句について深く思い巡らす場面を終えると、私たちは森(家族がよく集まるもうひとつの部屋)に入る彼の後について行きました。そこでジョセフは祈りました。突然天父(ダニエル、4歳)とイエス(夫)が現われ、彼の「真上の空中」(いすの上)に立ちました。ダニエルは、劇を始める前に夫と共に練習したせりふを厳かに復唱しました。「こはわが愛子なり、彼に聞け。」(ジョセフ・スミス2:17)

そこで夫は、イエスがジョセフに、当時存在し

ていたどの教会にも加わってはならない、と教えられたことについて話しました。そして、主がジョセフ・スミスを選び、この地上に福音を回復されたこと、ジョセフが最後まで忠実にその召しを果たしたことについて説明しました。

このレッスンから数日たって、そのときの経験が子供たちにどのような印象を残したのかわかりました。近所の子供が我が家に遊びに来たとき、息子が自信を持ってこのように言っているのを聞いたからです。「ぼく、ずっと昔にいた予言者のこと知ってるんだ。ジョセフ・スミスっていうんだけどね。君、知ってる?」

あの家庭の夕べのときほど、家族の一人一人が、最初の示現を現実のものとして体験し、その真实性を力強く感じたことはありませんでした。私たちは、聖典の中のほかの物語も劇にしようと計画しています。□



# 悪質ないたずらを

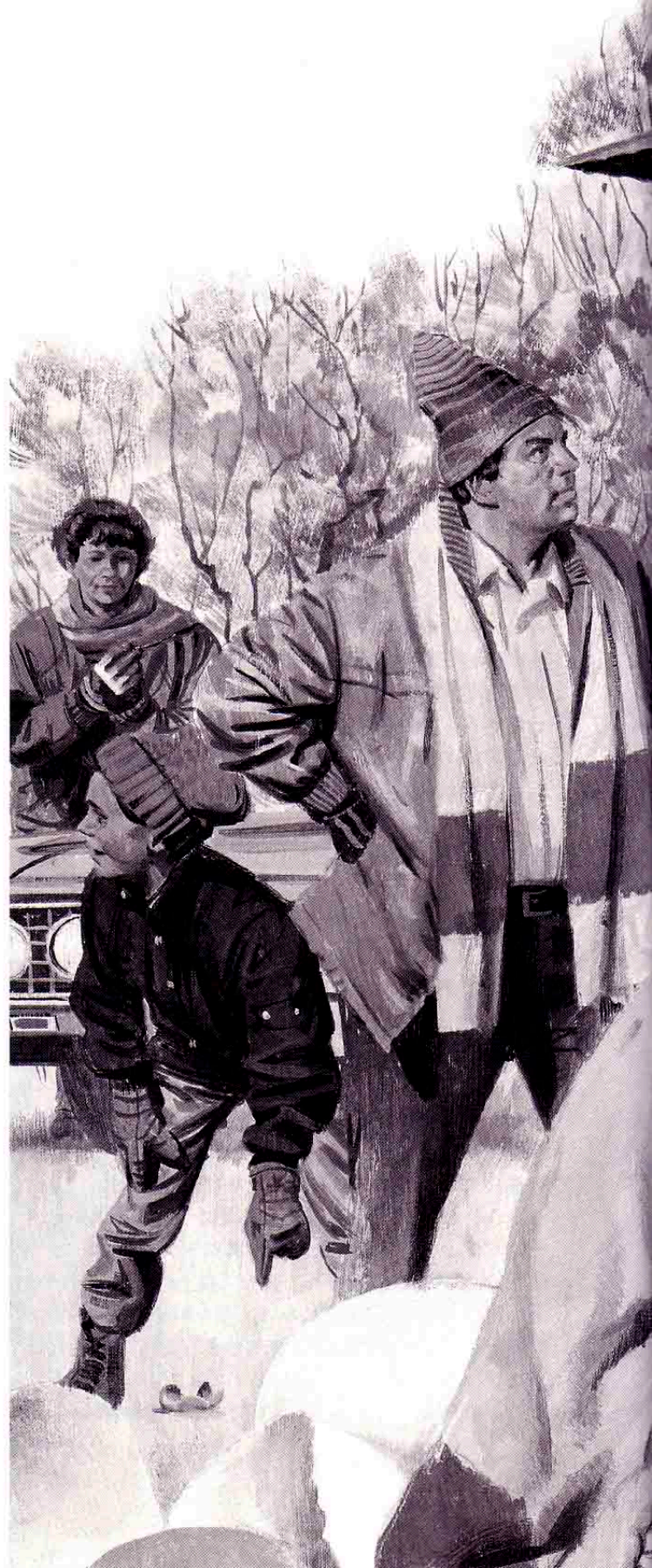
ジーニー・ランカスター

**12**月上旬のある午後のこと、夫が一番下の息子にバプテスマを施しました。この大切な日の感動にあふれた息子の愛らしい表情を見ていると、胸がいっぱいになりました。その夜には、ワード部のクリスマスプログラムにも出席し、特別なクリスマスの精神に満たされて、帰宅しました。本当にすばらしい1日でした。

しかし、この私たちの幸福な思いを、戸惑いと怒りに変えてしまう出来事が起きました。わが家へと通じる道に車を乗り入れたとき、表玄関の外灯のガラスが壊されているのに気付いたのです。電球は粉々に砕かれていました。少し前まで色鮮やかなクリスマスのリボンを支えていた棒も、折られて地面に落ちていました。さらに家の正面には、たくさんの生卵が滴っていました。鮮やかな黄色をした卵の黄身が、窓や軒先、壁のあちこちにこびりつき、玄関のドアはこの卵の黄身でべとべとになっていました。いてつくような寒さの中で、すでに固くなってしまっているものもありました。いたずらの被害に遭ったのはこれが初めてではありませんでしたが、今回ほどひどいいたずらをされたことはありませんでした。

夫と私は子供たちに家の中へ入るようにせきたてましたが、子供たちはこう聞いてきました。「お母さん、だれか知らないけど、どうしてこんなことをするの？ ぼくたちが嫌いなもの？」私たちは、子供たちをなだめてベッドに寝かせ、それから凍るような夜の冷気の中を外へ出て付着した卵の跡をこすり落とし始めました。そのまま朝まで放っておけば、ペンキがだめになってしまうことがわかっていたからです。1時間半後、私たちは家の中に戻りましたが、手は寒さで凍え、心は怒りに震えていました。

そのときふと翌日の日曜日、プライマリーの子供たち





# されたときに



に、救い主とその愛について話すことになっていたのを思い出しました。救い主と隣りに愛を示すいろいろな方法について話し合う予定になっていたのです。私は、心の中が怒りや憎しみの気持ちでいっぱいになるときに、一体どうしたら、偽ることなく愛を伝えることができるのだろう、と考えました。私たちはその夜、疲れきった体で、失望感を感じながら床に就きました。本当に素晴らしい1日になるはずだったのに、最後の最後で台無しになってしまったからです。

翌朝、ある人から犯人はだれなのかを知らされました。友人は、事件にかかわったふたりの少年を警察に通報した方がよいと勧めてくれましたが、夫と私は、もっとよい対処の仕方を考えることにしました。私たちは、ふたりでひざまずき、私たちだけでなく、その少年たちにとっても最善といえることを行なえるように、天父に祈り求めました。突然、祈りの答えが私たちの心に注がれました。そして、それまでの怒りの気持ちに代わって温かく平安な気持ちで心を満たしたのです。こうして私は、その日のプライマリーに出席することができました。そして、自分が救い主を愛していることや、救い主が私たちの生活を導いてくださることについて、子供たちに話すこともできました。

その夜のこと、私は主人と連れ立って、問題の子供たちとその両親に会いに行きました。手には2枚の皿にいっぱいのクッキーを持って。最初の家族は、近所に引越して来たばかりの家族でした。子供にクッキーをあげ、卵を使うのだったら、こんな使い方をした方がいいのでは、という私たちの気持ちを伝えました。そして、「またいつか、卵をどうしても使ってみたくなったら、私たちの家までその卵を持ってきなさい。一緒にクッキーを作りましょう」と言いました。

残念ながら、その子の父親は、和解を求めようとした私たちの計画を受け入れてはくれず、クッキーを持って帰ってくれ、と言ってきました。しかしとにかく、私たちはクッキーを置いて帰りました。車へ戻る途中で、次の家を訪問するという私の決心は、揺らぎ始めました。実を言うと、少し怖くなったのです。また、本当にがっかりしていました。自分たちのしていることはみこころにかなっているという強い確信があつて始めたことでしたが、自信を失いかけていました。

しかし、夫の励ましによって、計画を続行することができました。幸い次の家では、前の家に比べると、いくらかうまくいきました。この少年の両親は、事を荒立て

ずに対処したことに感謝してくれました。ただ、少年は卵事件と自分とはまったく関係がないと言い張りました。

私たちは、自分たちがしたことに喜びを覚えて帰途に就きましたが、どんな結果になるかは、はっきりわかりませんでした。

1時間ほどたって、2番目の少年が父親に付き添われ、我が家のドアをノックしました。自分ともうひとりの子供がやった、と告白したのです。ふたりでしでかしたことでしたが、この少年は、償いとして次の日の放課後、我が家を訪れ、見つかる限りの卵の跡をすべてきれいにすると、言うてくれました。

もうひとりの子供からは、何の謝罪もありませんでしたし、償いをしようという様子もうかがえませんでした。しかし、1カ月後、私は扶助協会の会長としてある家族の名前をいただきました。その家族の記録は、私たちのワード部に届いたばかりだったのですが、なんとあの少年の家族だったのです。私はそれまでどんなときでも、私たちのワード部に新しく移ってきた姉妹がいることがわかると、必ず訪問することにしていました。ただ、今度ばかりは、訪問するのをためらっていました。「私が行ったら、この姉妹はどう思うかしら。」「家の中に入れてくれないのではないかしら。」そんな思いが心をよぎりました。数日の間引き延ばしていた訪問でしたが、やはり、実行することに決めました。不安でひざが震えましたが、心の中で祈りながら、ドアをノックしました。

彼女は私を家の中へ招き入れてくれました。それだけでなく訪問の間中ずっと、私たちはあのクッキーを持って行った晩にどんな気持ちを感じたかを話し合いました。

「実はね」と彼女は言いました。「あの晩、奥さんはどんな教会に入っていたらっしゃるのと、よほど聞こうかと思つたの。だってあのような行ないこそ、まさに、主が私たちに望んでおられるものだと思ったから。」

その言葉を聞いたときの私の喜びは、たとえようがありませんでした。もしあのとき、私たちが警察を呼び、怒りにまかせて事に当たっていたら、どんな結果になっていたことでしょう。この姉妹の気持ちは、どうなっていたでしょう。みたまのささやきに耳を傾け、従つたことで、特にそれが救い主の誕生を記念する季節だっただけに、心に感じた感謝の思いはひとしおでした。□

\*ジーニー・ランカスター姉妹：コロラド州クリーリーステーク部ビッグトンプソンワード部所属。

## 共に成長し、強め合う

アメリカ合衆国西部のセコイア国立公園を訪れたある女性が、巨大なアメリカ杉を支えている根が、地中深く垂直に伸びているわけではないことを知って驚きました。上部の重い樹木が大風が吹いても倒れないわけを尋ねると、ガイドは次のように教えてくれました。「木は周りの木と助け合いながら成長します。根は地表近くにあるのですが、周りの木の根同士が絡み合っているのです。1本で孤立して立っている木は倒れるかもしれませんが、根が絡み合っている森の木は、互いによく支え合っているのです。」

同じように扶助協会も私たちの生活を祝福してくれます。共に集う姉妹たちは、力を合わせ、互いに支え合うことで人生の試練に耐えることができます。

ルツ記にはナオミと、逆境の中でナオミを支えた嫁ルツの話が記されています。(ルツ4：13-15参照)

現代に生きる私たちも互いに助け合うことができます。私たちは共に笑い、学び、歌い、働き、祈ります。自分の親族の女性とつながりがあるだけでなく、ワード部、支部、世界各国の姉妹たちともつながりがあるのです。

扶助協会で培われた友情を通して、あなたは生活の中でどのような祝福を受けていますか。

### 姉妹たちの多様性

キリストは次のように言われています。「汝らひとつとなれ。もしひとつとならずば、汝らはわがものにあらざ。」(教義と聖約38：27)もし、仕えたいという意志、学びたいという望み



ILLUSTRATION BY RON PETERSON

があり、愛の言葉が私たちの心を満たすなら、年齢、人種、言葉、文化の違いは姉妹同士のきずなを結ぶのに何の障害にもなりません。

コートジボアールのアビジャンでは、会員たちは温かい握手や抱擁で互いにあいさつを交わします。彼女たちは3つの人種から成り、それぞれに異なる言語を持つ6カ国からの出身者で構成されています。

扶助協会では、ガーナ人の姉妹がフランス語の賛美歌の指揮をし、ドイツ人の改宗者がレッスンを教え、日系ハワイ人が書記として奉仕しています。ホームメーカーの日にはザイール出身の姉妹と地元コートジボアールの姉妹が、栄養と子供の世話について若い母親たちを教えます。その後、姉妹たちは自分の国や村に伝わる伝統料理の作り方を披露します。炭焼き用の料理器具の上に身をかがめる姉妹もいれば、こんろの前に立つ姉妹もいます。そのようにして全員が互いに教え合っているのです。

この支部に集う10人から12人の扶助

協会の姉妹たちの意気込みはほかの女性たちにも広がり、今ではこのアフリカの都市で100人以上の姉妹たちが、福音の宝を分かち合っています。

世界に広がる各地の扶助協会を訪ねると、どこでも様々な違いを持つ姉妹たちが集っています。

自分とまったく異なって見える姉妹との間にきずながあるのを感じたのはいつですか。

### 互いに支え合う

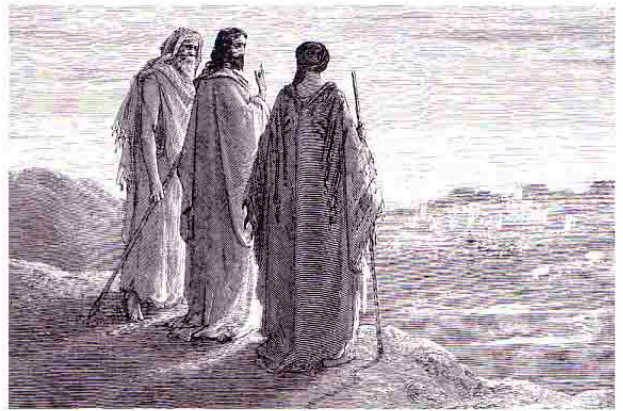
私たち一人一人は異なっていますが、必要とするものは同じで、目標も共通しています。また、最終的には、救い主と生ける水(ヨハネ4：10-11参照)から、同じ力をくみ取っているのです。

私たちは共に学ぶときに、福音の原則を実践する方法について、考えや経験を分かち合います。そのような分かち合いを通じて、「すべての者相互に啓発し、……同様の特権を有〔つ〕」(教義と聖約88：122)ことができるのです。

思いやりの気持ちをもって、共に行動することもできます。ワシントン州サムナーに住むメアリー・ヤング姉妹は、次のように語っています。「お互いに裁く必要はありませんし、自分の家族や、家庭や、やり遂げた事柄を、ほかの人々と比較する必要もありません。ただすべての人が互いに感謝し合い、愛し合えるようになり、それによって奉仕できるようになることを願っています。」

周囲の様々な姉妹たちとの交わりを通して、私たちはどのように成長できるでしょうか。□





## とぼりの価値

ブルース・C・ヘイフェン

能力をみずから伸ばして初めて知ることのできる、  
人や神に関する事柄があります。

**神**がご自身の永遠の世界と私たちの死すべき世界との間にとぼりを置かれたのはなぜでしょうか。これは理解し難いことのように思えるかもしれませんが、とぼりは前世の記憶を隠すばかりでなく、私たちの目から、神と天使、さらにその様々な働きをも隠しています。

復活の後、救い主はエマオへの道でふたりの弟子にお会いになりました。弟子たちは、イエスが彼らと話をされたとき、それがイエスであることがわかりませんでした。主はふたりから、彼らが「望みをかけ……た」(ルカ24:21。過去形であることに注意)ナザレのイエスについての話を聞きながら、死すべき肉体をもってみずから伝えたメッセージが彼らによく理解されていないことをお知りになりました。そこでイエスは言われました。「ああ、愚かで心のにぶいため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。」(ルカ24:25)

そして、「モーセ……からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを、説きあかさ

---

盲人は自分の持つ白いつえで  
「見る」ことに慣れていきます。  
つえが教えてくれる事柄を、  
目の不自由な人は別の相手に  
言葉で完全に伝えることは決してできません。

れた」のです。(ルカ24:13-31参照)

主は弟子たちにご自分がだれであるかを話されませんでした。主は十字架におかかりになる前に弟子たちを教えるときに使ったのと同じ聖句を使ってお教えになりました。

なぜ主はもっと早く弟子たちにご自身を明かされなかったのでしょうか。主はもっと明確に、もっと早くご自身の復活の事実を明かすこともおできになったはずです。

ルカによる福音書のほかの所には、ほとんど同時に死んだ貧乏人のラザロと金持ちのたとえ話が記されています。金持ちはとぼりの向こう側ではっきりとした知識を得、まだこの世にいる自分の家族に知らせ、悔い改めを勧めたいと思いました。そこで家族のもとにラザロを遣わしてくれるように父アブラハムに懇願しました。しかしアブラハムは、「彼らにはモーセと預言者とがある。それに聞くがよかろう」と答えました。

「金持が言った、『いえいえ、父アブラハムよ、もし死人の中からだれかが兄弟たちのところへ行ってくれましたら、彼らは悔い改めるでしょう。』アブラハムは言った、『もし彼らがモーセと預言者にとに耳を傾けないなら、死人の中からよみがえってくる者があっても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであろう。』」(ルカ16:29-31)

アブラハムがこのように答えたのはなぜでしょうか。

ヨハネによる福音書の第1章には、世の命であり、光である「言ことば」について述べられています。「光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。」(ヨハネ1:5)キリストは世に来られました。しかし、この世はキリストを知りませんでしたし、民もキリストを受け入れませんでした。なぜ主はもっとはっきりご自身をお示しにならなかったのでしょうか。主はひっそりと世においでになりました。

今日の私たちにとって主を知るのは極めて大切なことです。なぜ主は飛びかける白馬が引く立派な戦車を毎日真昼の空に走らせることをなさらないのでしょうか。そ

の戦車を空中に止め、天からの声で「我らの造り主のみ言葉を聞け」と言わしめることもおできになるはずですよ。

なぜ主はそうされないのでしょうか。

さらに、放蕩息子ほうとうのたとえ話を考えてください。若者がその父親のところに来て、自分の相続分が欲しいと言いました。相続分をもらってから若者は家を出ましたが、悲しい経験をして、そこからいくつかの大切な教訓を学びました。(ルカ15:11-32参照)父親は自分の息子にどんな困難が待ち受けているか知っていたはずですよ。この父親は息子を失う危険を冒さないで、どんな経験をするかあらかじめ息子に教えることができなかったのでしょうか。

創世に先立って、自由意志に基づいて経験を得させるというこの世の計画を立てられたとき、天父もこの危険を冒すことについてはお考えになったに違いありません。ご自分の子らを愛しておられるのに、なぜ天父は多くの者が戻らなくなるという危険を冒すことをいとわれなかったのでしょうか。天父は何か奇跡的な方法で私たちに力を及ぼし、ご自分の子らを失う危険を避け、共に天の王国のみもとに住む能力を私たち全員に授けることがおできにならなかったのでしょうか。

ヘブル書のある一節は、救い主ご自身も人生の多くの教訓を、苦しみを伴う方法、すなわち経験によって学ばなければならなかったことを明らかにしています。彼は、「激しい叫びと涙とをもって、ご自分を死から救う力のあるかたに、祈いのりと願いとをささげ……御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び、そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救すくいの源となり」とあります。(ヘブル5:7-9)

次に意義深い聖句が出てきます。この中でパウロは、よく理解できる知識だけを与える必要があると述べています。「あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要としている。すべて乳を飲んでいる者は、幼な子なのだから、義の言葉を味わうことができない。しかし、堅い食物は、

救いは目的であると同時に過程でもあります。  
この過程には、成長、発展、変化がなければなりません。  
このため、死すべき肉体にある間、私たちは単に情報を  
集めるだけでなく、  
様々な能力や技能を習得する必要があります。



DETAIL FROM THE AGONY IN THE GARDEN, BY GUSTAVE DORE

善悪を見わける感覚を実際に働かせて訓練された成人の  
とるべきものである。」(ヘブル5：12-14。下線付加)

なぜ正しくなるように人々に強制しないのでしょうか。  
天父のみもとに戻れなくなるかもしれない危険を冒して  
まで経験することがこれほど必要とされるのはなぜで  
しょうか。ミルクに慣れている私たちが、肉を食べる備え  
をするために感覚を実際に働かせる訓練を受ける必要が  
あるのはなぜでしょうか。

救いは目的であると同時に過程でもあります。この過  
程には、主イエス・キリストの救いを与える恵みに加え  
て、私たちの側に成長、発展、変化がなければなりません。  
このため、死すべき肉体にある間、私たちは単に情  
報を集めるだけでなく、様々な能力や技能を習得する必  
要があります。人々に正しい生活をするように強制する  
と、自由な環境の中で義が実現されていくべきであるこ  
の過程が干渉を受け、妨げられることにさえなります。  
義にかなった生活は、人々に何かをもたらします。

### 神聖な技能の習得

知識にはふたつの異った種類が存在します。ひとつは、  
情報を集め記憶するというような理性的の働きによって獲  
得され、他方は、私はそれを技能の開発と呼びたいと思  
いますが、ピアノを弾くこと、泳ぐこと、自動車のエン  
ジンを分解すること、歌うこと、踊ること、思考するこ  
となどの習得の結果としてもたらされます。キリストの  
ような人格を培っていく過程は、事実や数を知るとい  
うよりは、むしろ技能や神聖な属性を習得していくこと  
であると言えます。そしてこの神聖な技能を習得するには、  
私たちがその過程を経験しなければ不可能です。それ以  
外の方法を期待すべきではありません。練習をいという人  
にピアノを教えることのできるピアノ教師がいるでしょ  
うか。練習を積ませ、選手が努力する姿を観察せずに運  
動選手の技能を向上させられるコーチがいるでしょうか。

ピアノ科の生徒が練習をしなくても済むような、革新

的な教育方法を採用している音楽学校を想像してみてください。  
学校はすべての基礎的な原則を、純粋に理論的  
な方法で教えるとします。指の動かし方が詳細に説明さ  
れます。音楽の歴史と理論が深く探求されます。楽譜の  
読み方を完全に教えられます。生徒たちは、ピアノの教  
則本として今までに書かれた最上の書物を、すべて記憶  
することになります。学習過程は4年間続くことにして  
もよいでしょう。生徒は各自、重要でむずかしいピアノ  
協奏曲の楽譜を暗記するという学習計画を立てます。生  
徒たちはオーケストラとピアノのための音楽を流れるよ  
うに暗譜できるでしょう。生徒たちはそれについて何で  
も話せるようになるでしょう。

いよいよその「練習なしのピアノ科」の第1期生がデ  
ビューして、オーケストラと共演するためコンサートホ  
ールのステージに上ったとします。あなたは、一体どう  
なると思いますか。

とんでもない結果になります。それはなぜでしょうか。

確かに「考えること」はあらゆる形態の学習に不可欠  
の要素ではありますが、練習しなければ決して習得でき  
ない事柄もあるのです。

### 教師に従う

知識についての哲学を扱ったある重要な書物の中で、  
マイケル・ポラーニという学者は、技能の習得を知識獲  
得の特別の分野として位置づけています。ポラーニの信  
ずるところによれば、ある技能を習得するには、その技  
能に習熟した別の人の巧みな実技をまねることによっ  
てのみ可能になるということです。私たちがまねる教師自  
身がたとえ自分の技量のすべてを細かく具体的に説明で  
きなくても、この点に変わりはありません。教師の実技  
をまねるというこの考え方と、福音の中心的な概念の  
間には、非常に緊密な類似性があります。福音の中心的  
な概念とは、救い主を個人的に知り、その模範に従うこ  
とが福音を実践するための最高の方法であり、単に特定の



戒めや教義の細部を実行することに勝るといえるのです。

ポラーニは宗教について書いているわけではありませんが、彼の考え方は宗教上の知識に当てはまりません。「模範によって学ぶということは、権威に服従することを意味します。あなたが教師に従うのは、その実際の効果について詳細に分析し、説明できない場合でも、教師の方法に信頼を置くからなのです。教師を観察し、その模範を目の当たりにしながらその努力を見習うことにより、生徒は知らず知らずのうちに、教師自身さえはつきりとは意識していない事柄を含めて、その技量の奥にある原則を学びます。この隠れた原則の習得は、批判的な心を抱かず模倣に没入する人にだけ可能となります。社会がその構成員の蓄積された知識をすべて維持しようとするなら、伝統や習わしに従う必要があります。」（『個人の知識』p.53）

### 懐疑論者の誤り

福音の命じるところに自分を従わせる気持ちがないために、福音が真実であるかどうか試そうとしない人は、どこにでも見掛けられます。私たちは懐疑論者に対して、まず福音を実践してみて、その結果を見るように勧めます。しかし懐疑論者は、何か自由が奪われるかのようになると、服従する前にまずそれが真実であることを証明するように求めます。しかし、福音が実を結ばない原因は、彼のその懐疑的な態度自体にあるのです。なぜなら、福音の原則を実践しない限り、マタイ10章39節にあるように、そのために自分の生命を失うのでない限り、自分の求める証拠を見いだすことは決してできないからです。

技能を習得しようとしている人は、変わらぬ固い決意で完全に献身するまでは、依然多くの事柄が学べないまま残ります。ポラーニは、盲人がいかにして自分の持つ白いつえで「見る」ことに慣れていくかを述べています。つえが教えてくれる事柄を、目の不自由な人は別の相手

見たり聴いたりするだけで  
ピアノを弾けるようにはならないのと同じように、  
私たちが実際にその道を歩まなければ、  
主でさえ私たちに、  
どのようにすればキリストのようになれるのかを  
教えることは不可能なのです。

に言葉で完全に伝えることは決してできません。目の見える人が、目の見えないのはどのような具合かを知ろうとしてときどき目を閉じるだけでは、動機づけが不十分なため、つえが周りの世界について何を教えてくれるか学ぶことはできません。なぜできないのでしょうか。それは知る必要に迫られていないからです。目が不自由でなければ、知る必要はないからです。

この類推をさらに推し進めると、盲人は車にはねられるという危険を冒すよりは、家にいた方がよいと言うかもしれません。それに対して、教師の言えることは、次のことだけです。「つえの与える自由が得たいならば、その危険を冒す必要があります。あなたが外に出ていつて練習によって学ぶのでなければ、私はあなたにつえの使い方を教えることはできません。私はあなたの傍らに立って、あなたに話し掛けるつもりです。私は自分の知っている限りのことをあなたに伝えましょう。しかし、あなたが固い決意をもって実行しようとしなければ、私はあなたのために何もすることができません。」

一時に1歩ずつ、練習につきものの失敗をしながらも、つえに慣れる苦しい訓練をやり抜くことは、その努力とそれに伴う危険に値するだけの価値があります。このことを、何とかして目の不自由な人に納得させる必要があります。練習とは、単に反復することではありません。むしろ目的を掲げて、特定の技能を習得することを目指し、精神的な努力を積み重ねることによって達成される変化と成長の過程です。

このような事柄を人に伝えることができるでしょうか。懐疑的な友達はこう言うかもしれません。「日の光栄の王国の何がそんなにすばらしいのか、私にわかるように説明してください。そうすれば私は、おそらくすべての戒めを受け入れ、危険を冒し、主に服従し、すべての務めと定められた事柄を最後まで守るでしょう。しかし、最終的にそうするだけの価値があることを、まずあなたに証明してほしいのです。」

これに対して私たちは何と答えるでしょうか。復活の







前でも後でも、それがどのようなものであるかを、ほかの人に伝える方法はありません。私たちはなぜそうなのかはわかりませんが、それが物事の本質であり、宇宙そのものの性質なのです。私たちにできるのは、信頼して実行することだけです。試してみる人々には、何かが起こり、知識が得られるのです。しかしそれをだれかほかの人に説明しようとしても、聞く者はおそらく語られている内容を完全には理解できないでしょう。

死すべき肉体における生活は、私たちに天の王国に住むために必要な技能や能力、神聖な属性を伸ばす機会を与えてくれます。私の9歳になる息子が自動車を運転したいと言うなら、高速道路に出ると危険であることを彼に説明しなければなりません。自分の命を落とすばかりか、多くの人々の命を奪うかもしれません。彼にはまだ高速道路がもたらす恩恵を自分のものにできる能力がないからです。

息子が技能や判断力、成熟した能力を身に付けるまでは、高速道路を運転すれば命を落とすことになるでしょう。十分な準備もないまま、日の光栄の律法に支配された王国に住むという自由を享受し、それに伴う責任を引き受ければ、これと同じことになるでしょう。

責任は私たちがそれを受ける準備ができていのかかによって、自由を与えてくれたり、逆に私たちを押しつぶしたりします。

教義と聖約は次のように教えています。「およそ、われらのこの世に於て達する英智の一切は、何にてもよみがえりの時われらと共によみがえるべし。」(教義と聖約130:18)ここで言う「英智」とは事実、情報、または戒めや教義に関する知識を指すこともあるでしょう。しかし、同時に、キリストが持っておられるような資質や技能、すなわち自制、従順、同情、忍耐、自分を忘れて人に尽くす態度やそのほかの徳も指していると言えます。

とぼりの開くのが早すぎると、救いが失われる可能性がある、言い換えれば進歩が止まってしまうかもしれないのはなぜでしょうか。日の光栄の資質を伸ばすための

私たちは自分の努力だけで、キリストが持っておられたような資質を、完全に獲得することはできません。死すべき状態で得られるあらゆる学習の機会を完璧に活用できたとしても、やはり不可能です。自分にできることはすべて行なう必要があります。しかし、日の光栄の王国に住む能力は、最終的には神の賜として与えられるのです。

進歩が止まってしまうかもしれないのです。毎日、戦車が空を横切ったとしても、天父と天父が遣わされたキリストを知るうえで、大きな助けにはならないでしょう。(ヨハネ17:3参照)「永遠の命」とは命の長さについて言っているのではなく、命の質について言っているのです。それは、キリストと同じような生活を送る能力を、長期にわたって、困難を乗り越えながら、段階を追って伸ばしていくことです。私たちがキリストに倣って生きるとなると、私たちはキリストを知り始めます。

前世でサタンの計画が提出されたときのことを思い出してください。「われごとごとく人類を贖いて一人だに失うことなからしめん。われ正にかくの如くすべし。」(モーセ4:1)普通、サタンの計画の問題点は「主なる神のすでに人に与えたる人の自由意志を滅ぼさんとな[す]」ことであると言われています。(モーセ4:3)

### 自由意志の必要性

では自由意志はなぜそれほど大切だったのでしょか。神のみ前に戻るには成長が必要です。その成長に不可欠な技能や資質は、自由意志がなければ発達させることができません。まったく不可能です。馬を水のある所に連れて行くことはできても、それを飲むように強いることはできません。子供に本を与えることはできても、本人が自分の意志で読もうとしなければ、決して読めるようにはなりません。サタンの計画では成功しなかったでしょう。本人の選択にかかわりなく、ひとりも失われまいようにするというサタンの主張は、彼のいつもの主張と同じように、偽りだったのです。

このように考えていくと、自由意志に基づく行動や探求の自由が、知性の発達に欠かせないように、宗教的な資質を伸ばすうえでも、不可欠である理由がいくつかわかってきます。

救いには技能を伸ばす過程が含まれると考えることは、とぼりの存在を理解する手掛かりとなります。私たちは、

事物が現在あるとおりに存在しなければならないという事実、いらだちを覚える必要はありません。むしろ感謝すべきなのです。こうした環境に目を向ければ、信仰、悔い改め、そして神を知ることが、たどるべきひとつの過程であり、行動の原則であるのはなぜかがわかります。こうした過程や原則を、私たちは単なる説明だけではなく、経験によって理解するのです。神は偉大な教師であり、私たちが天与の能力を発達させるために従わなければならない範例と原則とをご存じです。神は人にこれらのことを教えることができますし、その能力を持っておられます。しかしそれは、私たちが全力を尽くしてその過程をたどるときだけです。

もし、正しいことを学んでいる証拠にメダルとか賞を受けたいと言いつたり、福音がどのように、またなぜ影響力を発揮するのか、どんな人にも説明できると主張したりするのなら、私たちはイエス・キリストの福音の本質をまだ理解していないと言えるでしょう。神ご自身でさえも、それを理解する本人の能力が伸びるまでは、視野の限られた私たちに説明されることは無理なのですから。私たちは低次元の律法を一つ一つ完全に習得しながら、霊的な意味での青年として、これからもお努力しつつ前進を続けるでしょう。

宗教の本質は、完全には推し量ることができません。経験による以外には、完全に理解することはできないのです。しかし、それで宗教の価値が下がるわけではありません。私たちの知る最も意義深いことでも、完全に評価したり具体的に論じ尽くしたりすることはできません。たとえば、家族に対する愛、証、神に対する感謝の気持ちなどがそうです。どういうわけか、これらを他人に完全にわかるように表現しようとする、その神聖さまで損なわれてしまいます。それらは、美や喜びといったものと同じように、具体的には表現できない大切なものなのです。

もちろん、経験から学ぶことに価値があるからといって、人生の教訓を学ぶために人間の犯すあらゆる過失を

みずから体験する必要があるというわけではありません。私たちは人の選択から生じる良い結果と悪い結果を見て、彼らの経験から誤りなく永遠に学び取ることができるのです。今日、世界の至る所で「罪悪は決して幸福を生じたことはない」(アルマ41:10)という聖句の正当性を裏付ける出来事を、目にすることができます。

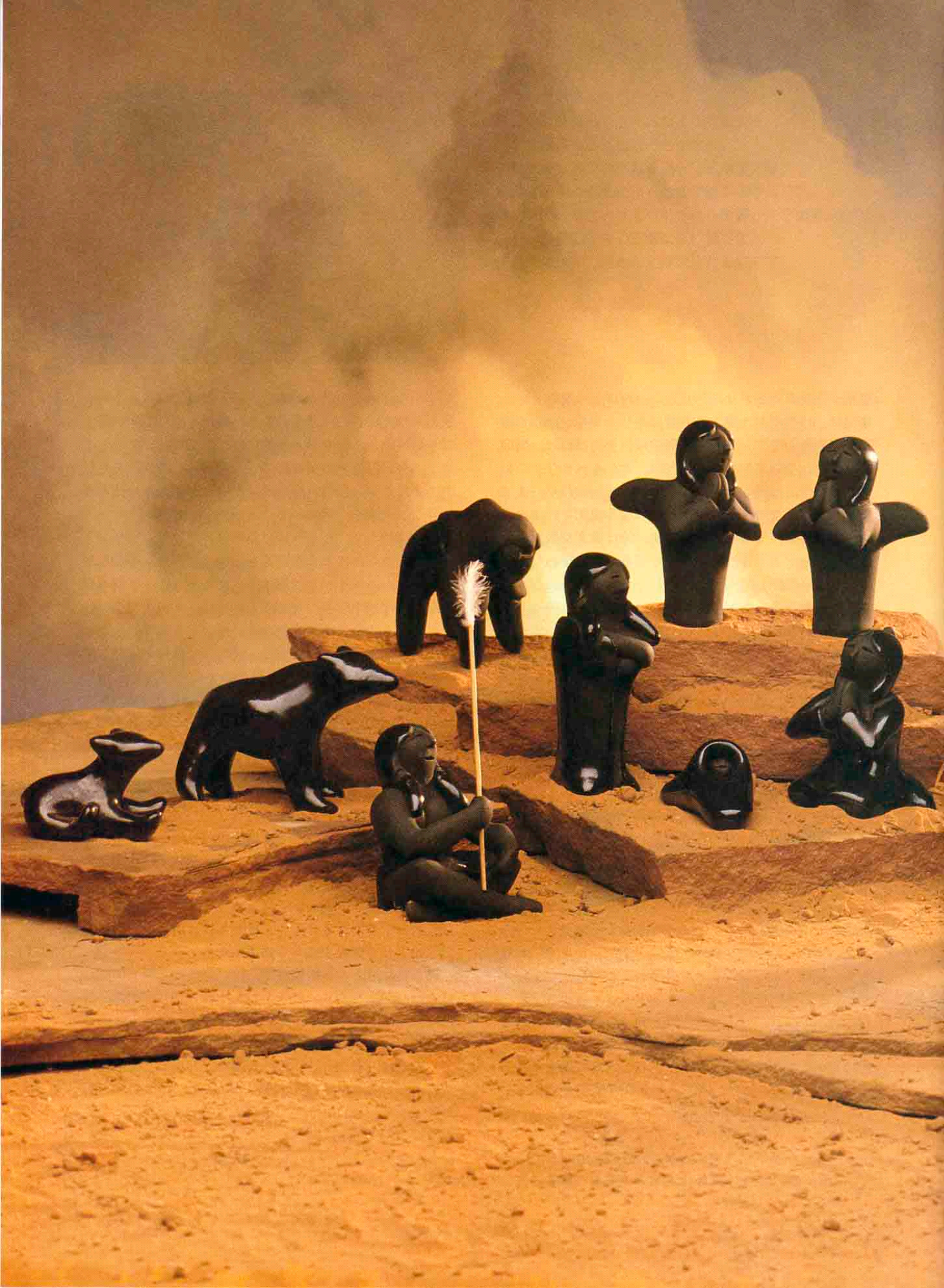
これに加えて、私たちは自分の努力だけで、キリストが持つておられるような資質を、完全に獲得することはできません。死すべき状態で得られるあらゆる学習の機会を完璧に活用できたとしても、やはり不可能です。自分でできることはすべて行なう必要があります。しかし、日の光栄の王国に住む能力は、最終的には神の賜として与えられるのです。「人が最善をつくしてはじめて、神のめぐみにより救われる」(IIニーファイ25:23)、また「キリストの御許<sup>みもと</sup>に来てキリストによって全くなれ。……あなたたちはこの恵みを受けてキリストにより全くなる」(モロナイ10:32)と、聖典には記されています。

救い主の贖罪<sup>しよくざい</sup>は私たちの罪ばかりでなく、弱さや不完全さも補ってくれるのです。

私たちの不完全さに対しても代価が払われたということは重要です。なぜなら、私たちにキリストの使命を思い起こさせてくれるからです。また理解を深め、意義を知るように努め、神のようになろうと努力するとき、自分で努力するだけでなく、私たちには助け主がいてくださることを確信させてくれるからです。

試みの世であるこの現世と、神の永遠の世界との間にはとばりがあります。ときとしてそのとばりが非常な薄くなる場合があります。しかし大多数の人々にとっては、やはりとばりが存在します。神がそれを置かれたからです。それは、どのような生活を送り、どのような人物になる必要があるのかを人が学べるようにして、いつの日か神と共に住めるようにするためなのです。□

\*ブルース・C・ヘイフェン兄弟：ブリガム・ヤング大学教務部長。



# キリストの降誕

世界の国々で作られた、キリストの降誕を表わす作品。  
キリストの誕生を告げ、それぞれの国の文化と伝統を伝えている。

左——アメリカ合衆国ニューメキシコ州のサンタクララに住む  
プエブロインディアンが作った粘土の陶器。

粘土を練って作った像を焼くと、  
このような独特の黒い色を帯びる。

熊の親子と水牛が、幼な子キリストにトウモロコシの贈り物を捧げる

3人の「賢いインディアン」を見ている。

足を組んで座り、手に羽根飾りを持ったインディアン（しゅうちやう）の酋長が、  
この出来事の神聖さを象徴している。

下——このドイツ製の置き物の

ろうそくに火がともると、その熱で風車が回り、台座が回転する。

一つ一つの人形と部品は木彫りで、手で彩色されている。



PHOTOGRAPHY BY STEVE BUNDERSON





上——イタリアで作られた  
このキリストの降誕を表わす場面は、  
オペラの第1幕のようである。  
古代ローマの遺跡を模して作られた  
ステージと人形はゴム製で、  
人形は本物のように彩色されている。

天使が持つ旗は、  
「栄えあれ」という叫びが  
聞こえてくるかのように  
喜びにはためいている。

人形たちは目の前に繰り広げられる  
奇跡を喜ぶ歌を歌わんとしている。

左——ドイツ製。マリヤとヨセフは、  
バイエルン地方の町

バンベルクの民族衣装を着ている。

右ページ——アフリカのケニアで作られた  
キリストの降誕の陶器の置き物は、  
天然の染料を用いて手で彩色されている。

ケニア独特のこの衣装は、  
先染めの毛糸の手織り。

博士のひとり象を連れており、  
飼い葉おけのそばにはシマウマが伏している。





上——グアテマラ製。粘土でできた小さな像は白く塗られ、  
神性さを表わしている。

下——ボリビアの民族衣装を着けたこの人形は布製で、  
中に詰め物がしてある。

飼い葉おけのそばには羊と共にラマが伏している。

次ページ——メキシコのワハカ出身の民芸家、  
ジュアン・ヘルナンデスの作品。

彫刻し彩色されたマリヤとヨセフ像は、民族衣装を着ている。

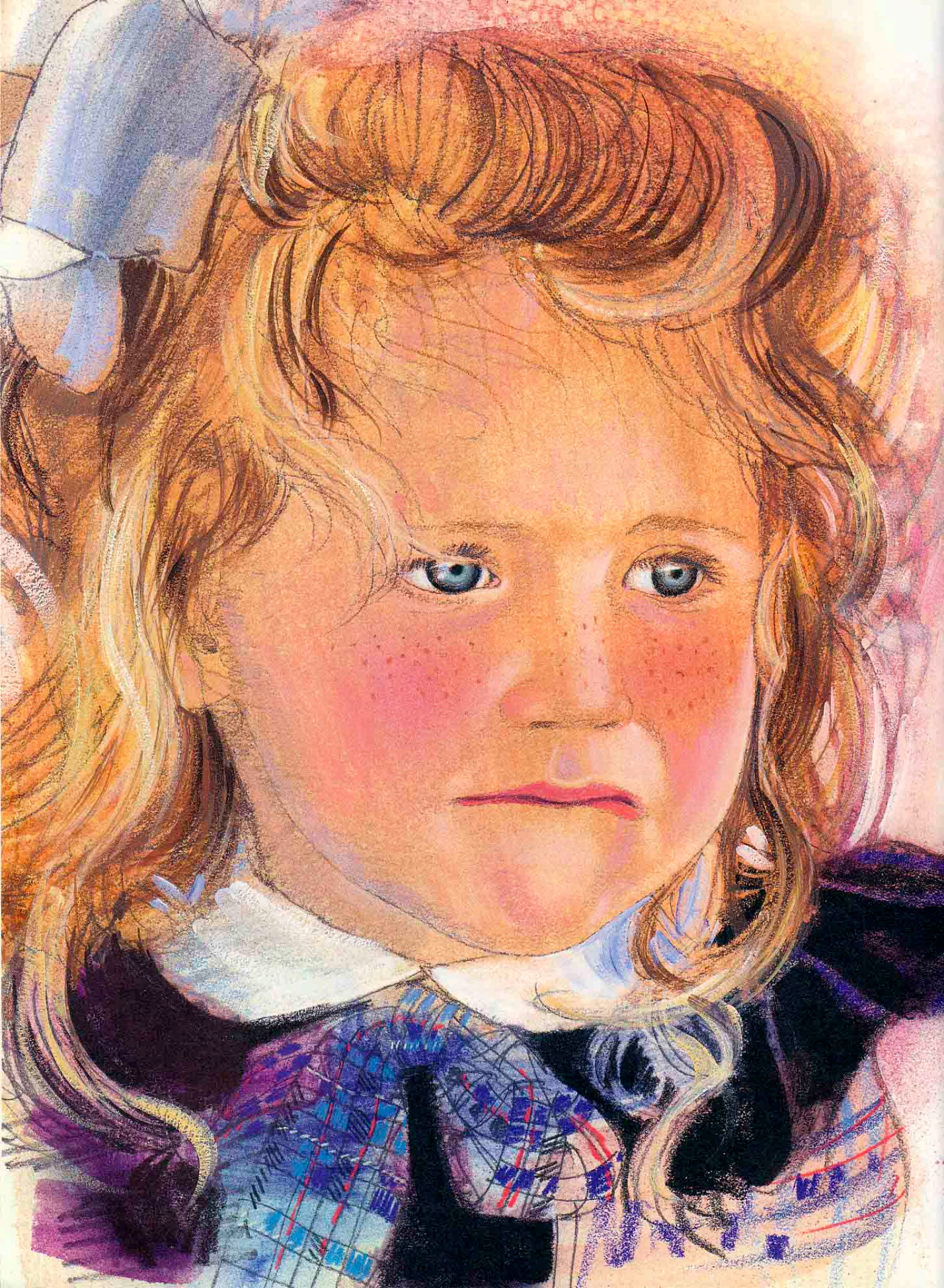
天使が掲げる星はワハカ地方特有のもので、  
このような星はほかの民芸家の作品には見られない。□

(この記事に掲載された作品は、ジェフリー・O・ジョンソン、  
ジャニタ・サドラー、スチーブンス・ライト、ハリラ・ライト夫妻、  
ノーヴー復元社、教会歴史美術博物館の提供による)









# 写真のように すばらしいクリスマス

M・C・オブライアント

ウェストモーランド夫妻は、これまで14人の養子や里子を含め、18人の子供を育ててきましたが、アンジェラのような子は初めてでした。

アンジェラは茶色のひとみと柔らかな褐色の髪をした4歳の女の子で、警戒心を解かない悲しげな顔をしていました。ソーシャルワーカーに連れられてウェストモーランド家にやって来たある秋の日以来、アンジェラはちっとも家族になじもうとはしませんでした。だれともかかわりを持ちたくないといった様子で、特にウェストモーランド兄弟に対してはそうでした。わずかばかりの衣服の入った、スーツケース代わりの段ボール箱の荷をほどこうともしません。一緒に住んでいるウェストモーランド家の4人の子供たちと遊ぶともせず、自分の殻に閉じこもるばかりでした。

ウェストモーランド兄弟は、子供を喜ばせ、安心させるのにこれまで効果のあった方法を全部試してみました。人形を買ってあげましたが、アンジェラは箱を開けようともしません。裏庭にブランコを作りましたが、座ろうともしません。

夜はベッドに寝かしつけて、おもしろい話や子守歌を歌ってあげても、返ってくるのは「お話なんて聞きたくないわ。おやすみの歌も歌わないで」という言葉でした。

ウェストモーランド兄弟は困ってし

まいました。ほかの17人の子供たちには、愛と信頼という処方せんがよく効いたのに、どうしたことだろう。拒絶と失敗の数週間が過ぎて、彼は自分たちにはアンジェラをどうしてあげることもできないのではないかと思いはじめました。あきらめなくなかったので、アンジェラを交えた家族の祈りと家庭の夕べは続けましたが、アンジェラはいつもよろいをまとっているかのようでした。

ソーシャルワーカーの説明によれば、アンジェラは、心から愛する人たちを失うのが怖いために、親しくならうとしない、不安な子供の典型的な症例ということでした。これまでの短い人生の中で、何軒もの里親の家庭を転々としてきたのです。ウェストモーランド家からもいずれ出ていくことになって、結局また家族を失うのではないかと恐れていたのです。

それを聞いたウェストモーランド兄弟は、自分がアンジェラを家族の一員として心から愛し、それは永遠に変わらないということを何とかしてアンジェラにわかってもらおうと、決意を新たにしました。そしてどうしたらわかってもらえるか、その方法を祈り求めました。

クリスマスの2、3週間前、ウェストモーランド兄弟は州庁舎で働いているときに、記念撮影をしている若い男女のグループが州知事の隣に立とうと

して押し合っている光景を見掛けました。そのとき、カメラのフラッシュのように、あるアイデアがひらめいたのです。妻に話すと、それならうまくいくかもしれないと、賛成してくれました。

それからの数日間というもの、ウェストモーランド家は家族の記念写真を撮る準備に沸き立ちました。伝道中のふたりの息子と、結婚して遠くに住んでいて旅費が工面できないふたりの子供を除いて、全員が集まることになったのです。それでも総勢12人以上になるはずでした。

初めのうち、アンジェラは家族で写真を撮るという考えにほとんど関心を示しませんでした。しかしそれが送別の記念写真でないと納得すると、多少乗り気になりました。

写真撮影の間、それまで会ったことがない子供たちも含めて、アンジェラの新しい兄弟姉妹は、だれもが彼女に対して特別な配慮を示しました。アンジェラははにかみながらも、注目的になっていることがうれしい様子です。ウェストモーランド家にやって来て以来初めて、本当の笑顔を見せ始めたのです。

記念撮影の後、ちょっとした問題が起きました。写真を現像し額に入れてできあがるまで、まだしばらくかかることをウェストモーランド兄弟がアンジェラに説明したのです。ところが、



「まだ写真はうちに持って帰れないんだよ」と言っても、アンジェラはわからないのです。突然笑顔が消え、暗い表情になりました。ウェストモーランド兄弟は、心が痛みました。

アンジェラはまた孤独な世界に閉じ込められてしまいました。それからの数日間、家族がクリスマスを間近にしていろいろな支度に追われていくうちに、彼女の口数はますます少なくなっていました。

クリスマスイブの夜遅く、アンジェラがベッドに入った後、玄関のベルが鳴りました。写真スタジオのウィルコックス兄弟です。彼は平たい大きな包みをウェストモーランド兄弟に手渡し、遅い時刻に訪問したことをわびました。ウィルコックス兄弟は立ち去るとき、振り向いてにっこり笑いながら言いました。「この写真のようなすばらしいクリスマスを！」

ウェストモーランド兄弟は包みを丁寧にほどき、写真を居間の暖炉の上の壁に掛けました。

翌朝、家族がクリスマスツリーの周りに集まってプレゼントを開き始めたとき、アンジェラのために内緒で作ったカラフルな人形の家を、彼女が目もくれないのを見て、ウェストモーランド兄弟はがっかりしました。

ところがアンジェラは、暖炉の上に掛けられた真新しい家族の写真を見ると、両手を頭上に振り上げて、「わあ、

アンジェラよ！ ほら、みんなの真ん中にいるわ！」と有頂天になって叫ぶのです。ウェストモーランド一家の記念写真に写っている自分を見つけたアンジェラの喜びようは、それから数分間というもの、それまでうっ積していた感情がせきを切ってあふれ出たかのようでした。

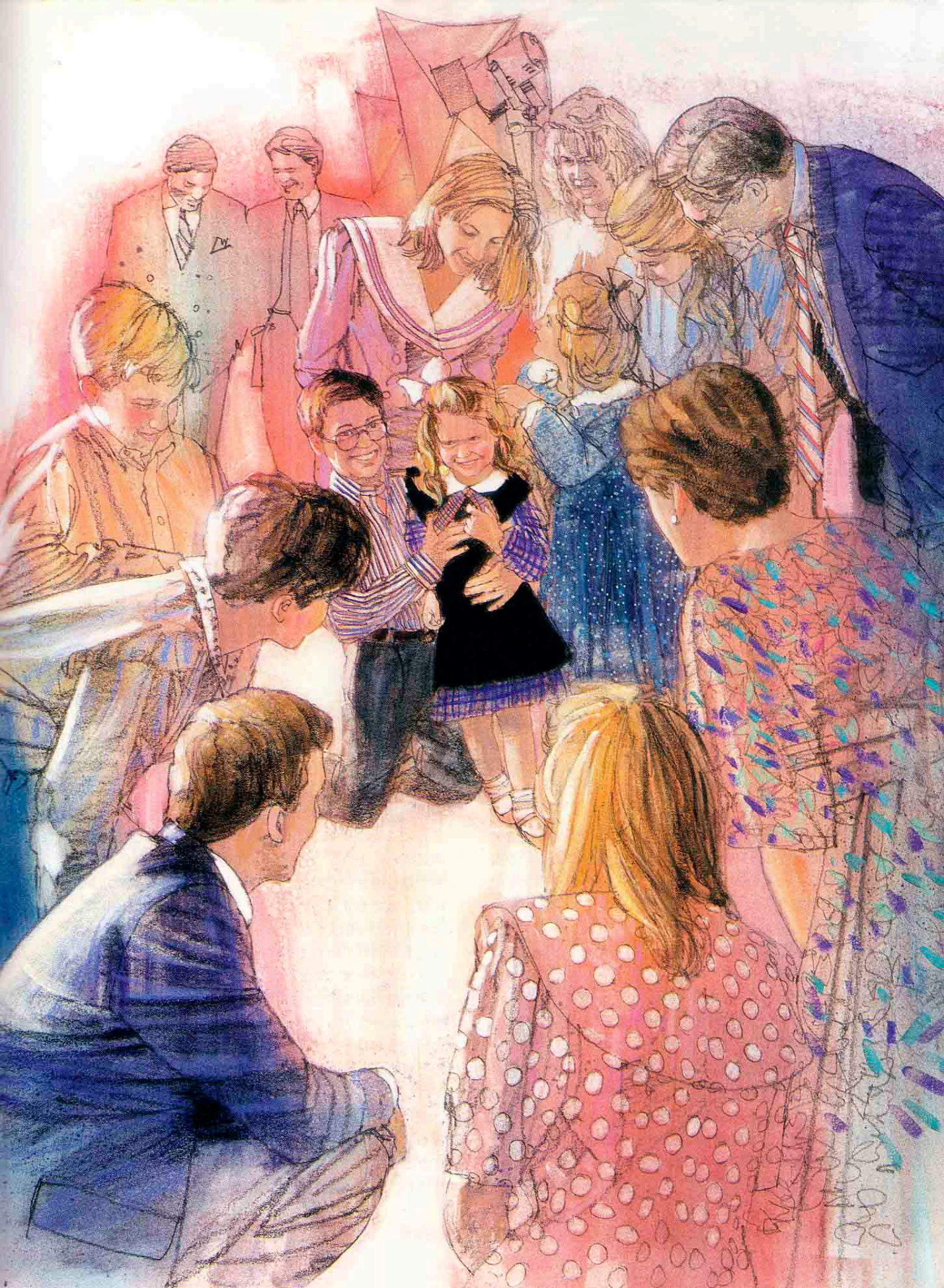
ところが喜んだのもつかの間、アンジェラは、また急に深刻な表情に戻ってしまいました。

そして、いすを写真の真下に引っ張って行ってその上に乗ると、写真のガラスを探るようになで回したかと思うと、今度は額をそっと持ち上げて裏を調べるのです。

アンジェラは返事を聞くのが怖いといった様子でおそるおそる尋ねました。「アンジェラがこの家から出ていくときになったら、どうやってアンジェラをこの写真から出すの。」

ウェストモーランド兄弟は幼い娘を胸にしっかりと抱き締めてこうささやきました。「アンジェラ、この写真からも、この家族からも、アンジェラが出ていくことは絶対ないんだよ。」うれしくてたまらないという様子で抱きついてきたアンジェラは、今ようやく家庭を見いだしたのです。□

\* M・C・オブライアント：カリフォルニア・コンコードステーク部コミュニケーション担当委員。





## 3枚の硬貨

リチャード・A・ロフ

その男の子は、父親の行ないを見習いました。

**監**督に召されて初めてのクリスマスを迎える年のことです。私のワード部には3人の小さな子供をひとりだけで育てている母親がいました。この若い女性福音について強い証を持ち、できる限り福音に沿った生活を送っていました。家政婦や裁縫などをして生計を立てていましたが、暮らし向きは決して楽ではありませんでした。

8歳に満たない3人の男の子をひとりだけで育てるのは並大抵のことではありません。活発で元気一杯のこの子供たちは、いつも何かしら問題を起こしているかのようでした。同級生と取っ組み合いのけんかをしているのをやめさせたことは1度や2度ではありません。

この苦勞している家族を助ける善良な人々が何人かいました。そのうちのひとりの兄弟のことを私は決して忘れることができません。もうあと1、2週間でクリスマスを迎えるという日曜日のことでした。ある兄弟が監督室へ入ってきてふたりだけで話したいことがあると言いました。その若い母親と子供たちのことを心配し、何かしてあげたいと思った兄弟は、私にお金を渡し、彼らのために一番いいと思う方法で使ってほしいと言うのです。そのとき私は、部屋の中に彼の幼い息子がいることをほとんど気に留めませんでした。

その家族が何を必要としているかわからないが、とに

かく助けたいという気持ちのようでした。監督ならどうすればよいか靈感によってわかったと思って、驚くほど多額のお金を差し出しました。私が驚いたのはただ金額が多かったからではなく、彼のつましい生活振りをよく知っていたからでした。この贈り物は彼自身の家族のクリスマスにとって、少なくとも物質的な意味でかなりの犠牲となることは明らかでした。けれどもこの賢明な兄弟は本当の報いがどこからもたらされるか知っていました。

きらきらと輝く決意に満ちた目を見て、私は穏やかに辞退しようと思いました。しかし結局は感動で胸を詰まらせながら無私の贈り物を感謝して受け取り、若い母親とその息子たちが少しでも楽しいクリスマスを迎えられるように最善を尽くすことを約束しました。また、贈り主のことは黙ってほしいという彼の要望にもこたえることにしました。

この話がここで終わったとしても、心に残る話であることには変わりありません。けれども、私の心に深く刻み込まれるような出来事がまだ続くのです。無私の気持ちで差し出された献金でその家族を助けることができたのは、とてもうれしいことでしたが、私の言う出来事とはそのことを指すものではありません。それは、あの善良な兄弟が訪れてから1週間後のことでした。

クリスマスまであと2、3日となったころ、什分の一年末面接の約束の合い間のことでした。監督室のドアを静かにノックする音がしました。ドアを開けると、6歳の男の子がひとりだけで立っていました。先週の日曜日に父親と話している間、監督室で静かに座っていたあの男の子でした。

彼は、「ちょっとだけ話してもいいですか」と丁寧に尋ねました。子供にとっては監督室へ入るのは少し胸がどきどきすることでしょう。私はこの男の子を部屋に招き入れ、いすに座るように言いました。すると彼はもぞ



もぞとポケットの中を探り、やっとのことで3枚の硬貨を取り出すと机の上に置きました。「これだけしかなくてごめんなさい。それにずっと持ってたからちょっと汚くなっちゃった」と言っ、父親が友達の母親を助けたように、3人の友達を助けるためにそのお金を使ってほしいと頼むのです。私は胸が一杯になり、目頭が熱くなりました。「ぼくの大切なお金を3人の友達にどうやって分けたらいいか、監督さんならきっとわかると思っ、少年はそう付け加えました。

このひとつの出来事から、なんと多くの教訓を学ぶことができるでしょう。父親の無私の行為の模範、幼い男の子の監督への信頼感、謙遜で偽りのないキリストのような行為。ほんの数週間前、私はこの男の子を友達と組み合わせのけんかをしているところから引き離したば

かりでした。それから間もなくそのけんか相手がこのような赦しの愛と思いやりを受けることになるとは思ってもみませんでした。

私は少年を抱きしめました。涙を見られないようにするためでもありましたが、大半は感謝の気持ちと、天父が彼をどんなに愛しておられるかを伝えるためでした。それからドアの所まで一緒に行き、握手をして、この惜しめない贈り物で彼の友達がクリスマスを楽しく過ごせるように必ず最善を尽くすと約束しました。監督室へ戻ろうとする私の背中に向かって少年はささやきました。「監督さん、ぼくがしたこと、だれにも言わないでね。」

確かに私はこれまでだれにも話しませんでした。でも、この心温まる話をこのようにして皆さんに話すことは許してもらえると思います。あの日私たちが感じた愛と思いやりに満ちた穏やかなクリスマスの精神を、少しでもほかの人に感じてほしかったのです。□

\*リチャード・A・ロブ兄弟：メイヨー・クリニック(ミネソタ州ロチェスターにある有名な医療センター)で医学の研究に従事する科学者。ミネソタ州ロチェスターステーク部長。





# ボルツァノでの クリスマス

パトリック・シャー・ホブキンス

クリスマスイブのことでした。スタウト長老と私は再び出掛ける前にお祈りをするにしました。私たちはその日最後の家庭集会から戻ったばかりで、いてつくようなイタリアの寒い外気の中へまた出て行くのは私にとってはあまり気が進まないことでした。けれども同僚は、私たちの計画を実行する時間はまだ残っていると考えたのです。

「クリスマスに特に行く当てもない人々のところへ私たちを導いてください。この休暇に悲しみと寂しさを味わっている人々を元気づけることができるように助けてください。」私たちはこう主に祈り求めました。

求道者のために用意したクリスマスプレゼントの残りをスタウト長老がかき集め始めたので、私は数分前にいそいそと外したばかりの服のボタンをしぶしぶ掛け直しました。紙のヒイラギで飾り、根元をアルミホイルで包んだろうそくがまだ5本残っていました。それは私たちの手作りのクリスマスプレゼントで、行く当てもなくぶらぶらしている人に歌ってあげようと、『神の御子は今宵しも』(賛美歌117番)の歌を練習しながら作ったものでした。

私たちは人気のない寒いボルツァノの通りへと出て行きました。私はだれか元気づける人はいないかと探しましたが、内心は不安でした。伝道に熱意を持ってはいたものの、イタリアへ来てまだ20日余しかたっていない私にとって、見知らぬ人に近づき、ほとんど理解できない言葉で、しかも興味のなさそうなことについて話すのは、やはりむずかしいことでした。

ひとりの男性が私たちの方へ向かって歩いて来ましたが、私たちから視線をそらしました。私たちは何とかその人を呼び止めて話し掛け、飾りのついたろうそくに火をともして渡し、歌を歌いました。

歌っているうちに、その人のぼんやりと遠くを見るような目つきが消え、ほほえみが浮かんだばかりか、温か

い表情さえうかがえるようになりました。元気を取り戻して歩いて行ったその人を見て、私の気持ちも和み、その晩の計画に対してもっと積極的な態度を取れるようになりました。結局は良い1日で終わるだろうと思えました。

それから町の中央に向かって歩いていくと、厚手の上着を着て左手で松葉づえをついた、足の不自由な白髪の老人に出会いました。スタウト長老は私がイタリアへ来る前にもその老人に会ったことがありました。私たちはろうそくをプレゼントして、歌を歌いました。

老人はとても喜んで言いました。「わしと一緒に来ないかね。」強いドイツ語なまりのイタリア語でした。「これから教会へ行くところなんだ。」私たちはその申し出に従い、老人に歩調を合わせてゆっくりと歩き出しました。歩きながら、スタウト長老と老人は話し続けました。

ふたりが話しているのを見ているうちに、この老人が非常な寒さにもかかわらず、松葉づえをついている手に手袋をしていないことに気がきました。「左手にこの手袋をはめてください。」私はたどたどしいイタリア語で言いました。すると老人は答えました。「いや、いいんだよ。昔ロシアへ兵隊に行ってたときは、冬でも今より薄着だったからね。あのころのことを思えば何でもないよ。」

教会に近づくと、たくさんの人が外で待っていました。同伴の老人が大声で言いました。「皆さん、このアメリカ人が歌を歌って、プレゼントをくださるそうですよ。」これは私たちの計画にはなかったことでしたが、とにかく歌を歌い、残りの3本のろうそくの中から1本を渡しました。老人はわきに立って、ほほえみながら見ていました。

夜も更け、さらに寒さが厳しくなってきました。スタウト長老と私は歌い終わると、私たちの手袋をはめるように老人に勧めました。けれども老人はまた同じように、

天使はいつも白くて長いローブを着ているわけではありません。

背の高さや肌の色、国籍も様々であり、  
ときには松葉づえをつけて現われるのです。

昔ロシアで冬を過ごし、もっとひどい寒さを経験したことを説明しました。

すると、1台の車が教会の近くで止まり、よい身なりをした婦人とその幼い息子が出てきました。その男の子は、1年のうちで最も好きな日の前の晩に教会へ行かなくてはならないことに腹を立て、わめき散らしていました。母親がなだめようとしていると、老人はその男の子の方へ行こうと私たちに合図しました。松葉づえをつきながら歩く老人の後について行くと、老人は大きな声で言いました。「坊や、このアメリカ人のお兄さんたちが君のために歌を歌って、プレゼントをくれるってさ。」

私たちはその少年の前で目と目を合わせられるようにひざまずき、歌を歌い始めました。少年はパッチリと目を見開き、私たちのよく練習したクリスマスキャロルに黙って一心に聞き入っていました。その間、老人はやはりほほえみながら、片時も目を離さずにその光景をうれしそうに見ていました。立ち上がって母親にクリスマスのあいさつをしようとする、私たちの歌を聞いて泣いていたのがわかりました。涙を浮かべながらにっこりとほほえむ婦人に何か言おうとすると、老人がまるでサンタクロースのような声で「メリークリスマス」と言いました。

私たちが声をそろえて「メリークリスマス」と言い、今度は老人に向かってこう尋ねました。「ろうそくがまだ1本残っているの、だれかあげる人が見付かるまで続けるつもりですが、どうされますか。」

彼は下を向いてから、私たちの方を見て言いました。「そうだな、とにかくここは人が多すぎる。一緒にもう少し小さな教会へ行ってみないかね。」

この楽しい同伴者とまだ一緒にいられることを喜びながら、私たちは別の教会を探しに出掛けました。松葉づえをつきながら、老人は静まりかえった通りを案内してくれましたが、もうひとつの礼拝堂は閉まっていた。ますます底冷えがしてきたので、老人の手のことが気掛

かりでした。手袋もせず、松葉づえを持つためにずっと動かすことができない手はどんなにか冷えきっていることでしょう。ふたりして手袋をするように勧めましたが、やはり断わられてしまいました。

教会を通り過ぎて歩いていくと、ふたりの十代の少女が悲しげに通りを歩いているのが目に留まりました。老人はすぐに大声で呼び掛けました。「その娘さんたち、このアメリカ人の青年が君たちのために歌を歌って、プレゼントを渡したがつってるんだがね。」ろうそくがもう1本しか残っていないことを思い出して心配しながらも、その1本に火をともしてひとりに渡しました。

「もうひとりの分は？」老人が尋ねました。「これが最後のろうそくなんです」とスタウト長老が説明しました。老人は「待てよ」と言って、ポケットの中を探し始めました。やっとのことで私たちがあげたろうそくを取り出し、もうひとりの少女に渡しました。スタウト長老と私はクリスマスキャロルを歌い、老人はほほえみながら立って見ていました。少女たちの顔にもほほえみが浮かんできました。

少女たちが行ってしまうと、スタウト長老は言いました。「さあ、これでろうそくはおしまいだ。そろそろ家に帰ろう。」老人は先程の教会のところまで一緒に戻ろうと言いました。教会まで来ると、互いに「メリークリスマス」と言って別れました。

アパートへ戻ると、スタウト長老と私はひざまずいて祈りました。何人かの人の心を動かし、悲しい表情をした人々の上に小さな光を輝かせられたことに感謝しました。また、天使はいつも白くて長いローブを着ているわけではなく、背の高さや肌の色、国籍も様々であり、ときには松葉づえをつけて現われるという教訓を学べたことに感謝しました。□

\*パトリック・シャーン・ホプキンス兄弟：ニューヨーク州ニューヨークステーク部マンハッタン第1ワード部会員。



「スペイン製のキリスト降誕の置き物」ピュイ・リヨペラ作

如女子キリストのみ前でぬかすくマリアとヨセフ。

この手作りのテラコッタ人形が着ている服は、紙粘土に似た「コソクリ紙」が使用され、隆盛を誇った往時のスペイン文化をつかいがい知ることができる。

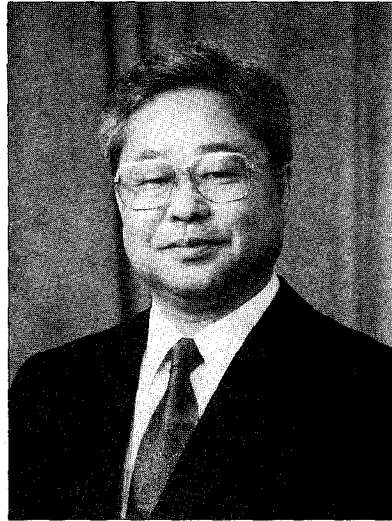


**竹**製のこのキリスト降誕の置き物は、香港で作られた。マリヤとヨセフ、3人の博士の腕は、かつて熱心な祈りを表わすかのように組み合わされていたが、歳月とともに竹が乾燥して裂け、開いてしまった。今では、マリヤと博士のふたりが腕を広げてキリスト降誕の奇跡を喜び迎えているかのように見える。(本誌「キリストの降誕」p.34参照)

# このクリスマスに

アジア北地域会長会第一副会長

韓 仁 相



**救**い主がこの地上で教えと導きを施されるはるか以前に、予言者イザヤは次のように予言しました。

「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、『靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』となえられる。」(イザヤ9：6)

イザヤが予言したとおり、私たちが罪から贖い、贖罪あがな しよくごいの力を通して人々を永遠の天父のみ前に連れ戻すために、ナザレのイエスは来られました。

私たちは目まぐるしい変化の時代に生きています。ここ2年ばかりの間にも、奇跡としか思えないような政治情勢の大きな変動を、国際社会の中で目撃してきました。

しかも、先進諸国は「生活向上」の名の下に、ほとんど1カ月おきかそれ以上の頻度で、新種のコンピュータ、

自動車、飛行機、そのほかの品物を熱心に生産しています。

にもかかわらず、私たちはこれまで以上に世界を覆う混乱、争い、不和、悲惨な出来事、訴訟、戦争を絶えず見聞きしています。

だれもがコンピュータの前で、忙しくしています。

だれもがせわしいスケジュールを抱えて、そこかしこに出掛けて行きます。

速ければ速いほど喜ばれます。

高速道路はどことも、速く目的地に着こうとする人々の車で、渋滞しています。

このクリスマスに、私たち全員が少し心を落ち着け、しばらく立ち止まって、自分の歩んでいる人生の道が「大能の神、とこしえの父、平和の君」に向かっているかどうか振り返ってみてはどうでしょうか。

それは救い主がこう言われているか

らです。

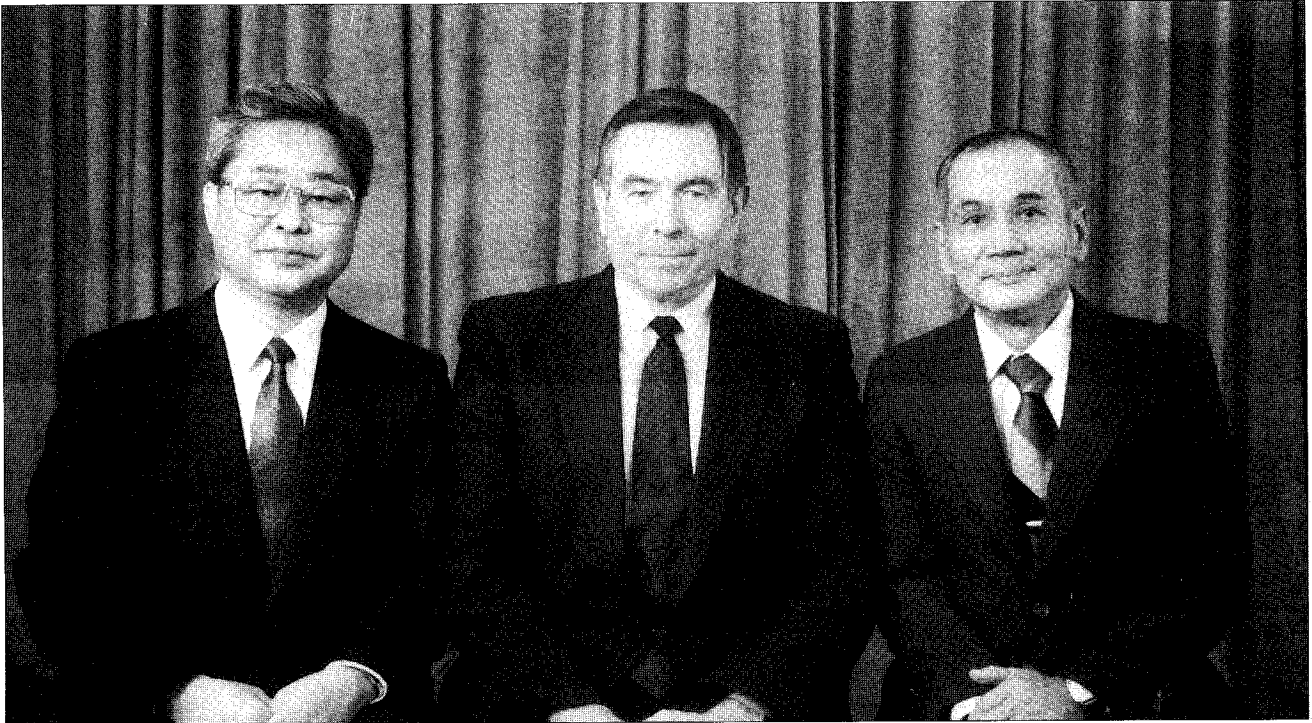
「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みがあたえられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ11：28-30)

愛する兄弟姉妹の皆さん、

このクリスマスの季節に皆さんがもう一度、主の大義のために献身する決意を新たに、すぐにでもキリストのみもとに行く準備ができるように、私たちは心から祈っています。

皆さんの上に天父の祝福があり、幸福を感じ、救いの気持ちきもちを保てるように、救い主イエス・キリストのみ名により願っています。アーメン。□

# アジア北地域会長会の紹介



## 第一副会長 韓仁相長老

韓長老は、1938年12月10日、韓国ソウルに生まれた。これまで7年間にわたってソウルにある教会管理本部で地区監督を務めてきた。

以前は教会のソウル・ディストリビューションセンターを管理していた。また韓国の教会のための翻訳の責任者でもあった韓長老は、モルモン経を韓国語に翻訳した。

仁川にある大学校を卒業し、ソウルの弘益大学でも学んだ。教会では、支部長、地方部長、地区代表、韓国釜山伝道部の伝道部長を歴任している。韓長老は伝道部長、地区代表に召された最初の韓国人である。七十人第二定員会会員に召された当時、日曜学校教師、また神殿の結び固めの儀式執行者として働いていた。妻の李揆仁姉妹との間に5人の子供がいる。

## 会長

### W・ユージン・ハンセン長老

ハンセン長老は、1928年8月23日にユタ州トレモントン市に生まれた。アイダホ州ストーン出身のジーニン・シヨウウェル姉妹との間に息子5人、娘ひとりに恵まれ、男女7人の孫がいる。

1950年には農業経済学の学士号を取得してユタ州立大学を卒業、1958年にユタ大学で法律学博士号を取得した。それ以後はほとんど開業弁護士として働いた。

これまで祭司定員会アドバイザー補助、祭司定員会アドバイザー、監督、副監督、ステーク部若い男性会長、高等評議員、ステーク部幹部書記、ステーク部長を歴任。

1989年4月1日に七十人第一定員会会員に召され、昨年10月1日からアジア地域会長会の第一副会長の責任にあつた。

## 第二副会長

### サム・K・島袋長老

日系アメリカ人の島袋長老は、1925年6月7日、ハワイ州ワイパフで生まれた。ハワイ大学から行政学の学位を取得し、ハワイ州労働局で24年間勤務し退任している。

今年、七十人第二定員会会員に召されたときはホノルル西ステーク部ステーク部長の任にあつた。1954年から1957年まで北部極東伝道部で専任宣教師として働き、後に、監督、高等評議員を務めた。1981年から1984年までは日本仙台伝道部の伝道部長、さらに1985年から1988年までは東京神殿の神殿長としても責任を果たした。

1957年、ハワイ神殿で結婚した島袋長老と妻の道子・広瀬(旧姓)姉妹の間には娘がひとりいたが、15歳のときに亡くなった。□

# ソ連のふたつの共和国、 奉献される



9月12日、ウクライナ共和国の首都、キエフ市を流れるドニエプル川が見渡せる丘の上から、十二使徒評議員会会員のボイド・K・パッカー長老は、ソ連のウクライナ共和国を、福音を宣べ伝える地として奉献した。

パッカー長老に同行したのは、同じく十二使徒評議員会会員のダリン・H・オックス長老、七十人第二定員会会員であり、ヨーロッパ地域会長会第二副会長のデニス・B・ノイエンスンバンダー長老である。

このたびの奉献の祈りには、約40人の会員と宣教師、求道者が同席し、故ウラジミール公をたたえる記念碑のそばで捧げられた。ウラジミール公は、今から約1,000年前の西暦988年、この地にキリスト教を紹介した人物である。

パッカー長老とほかの参列者がこの記念碑に集まると、空を覆っていた雲の透き間から日の光が差し込み始め、真理の回復を告げる賛美歌『麗しき朝よ』を英語とロシア語で歌って開会した。続いてオックス長老、ノイエンスンバンダー長老が短い話をした後、奉献の祈りがパッカー長老により捧げられた。こうしてウクライナ共和国は、ソビエト連邦で最も新しく奉献された共和国となった。

これに先立つ6月24日、十二使徒評議員会のダリン・H・オックス長老とラッセル・M・ネルソン長老、そして七十人第一定員会会員でヨーロッパ地域会長会会長のハンス・B・リンガー長老は、アルメニア共和国を奉献するための簡素な式典に集まった。アルメニア共和国の首都、エレバン市を見渡せるこの奉献の場所からは、アララテ

写真上——ドニエプル川越しに望むウクライナ共和国の首都キエフの地平線。前方は古くからの教会の建物が建ち並び記念公園。

写真下——ウクライナ共和国は9月12日、ウラジミール公をたたえる記念碑の近くで奉献された。ウラジミール公は約1,000年前にロシアにキリスト教を紹介した人物である。

山も望むことができる。創世記8章4節によると、ノアの箱舟がこの山にとどまったと記されている。

オークス長老は奉獻の祈りの中で、アルメニアが「キリスト教徒の初期の歴史記録からも明らかなように、天父の子供たちの幾世紀にもわたる礼拝によって清められた地である」と言及した。

さらにオークス長老は、この地の人が過去から引き継いできた困難に打ち勝ち、前進しようと努めるときに、「良き行ないによりもたらされる恩恵」を悟り、「自由がもたらす心地よい風」

を感じられるように請い願った。そして幸福という祝福が注がれ、「自由の歌が響きわたる」ように祈った。

ソビエト連邦を公式に奉獻した最も古い記録は、1903年8月6日に、当時の十二使徒評議員会会員であり、ヨーロッパ伝道部伝道部長であったフランシス・M・ライマン長老が、サンクト・ペテルブルグ市(後のレニングラード市)を訪れた際に捧げた祈りとされている。

ラッセル・M・ネルソン長老は、1990年4月26日、レニングラード市

(現在、サンクト・ペテルブルグ市に再び改称された)を訪れた際、この地に対し再奉獻と感謝の特別な祈りを捧げた。

また、タバナクル合唱団がソ連ツアーでモスクワを訪れていた6月25日、共にモスクワ入りしていたネルソン長老とオークス長老は、クレムリンの城郭の近くにある公園に赴いた。そして、ネルソン長老により、ソビエト連邦に住む人々と政府への祝福を求めて祈りが捧げられた。〔「チャーチニュース」1991年9月28日付〕

## フィリピン人の救済に 役立てられる教会の基金

**教**会は、ワシントンD. C. にあるフィリピン大使館に対し、フィリピンのピナツボ山噴火による被害者救済のために2万5,000ドルを寄付した。この寄付金は9月6日、十二使徒定員会会員のM・ラッセル・バラード長老から、エマニュエル・ペラエス大使代理のフランクリン・エブダリン次席に、小切手で手渡された。同氏はこれまでフィリピンで火山問題に取り組んできた。

バラード長老はこのように述べてい

る。「これらの基金は教会員一人一人から寄せられた断食献金によるものです。この寄付金が、ピナツボ山噴火の被害に苦しむ人々に何らかの形で役立てられるよう願っています。」

これに対し、エブダリン次席は、「私たちは貴教会から過去にも援助をいただきましたが、このたびも多くの恩恵を受ける国民に成り代わって、ありがたくこの小切手を受領いたします」と語った。

また、フィリピン・アメリカ協会副

理事長イーレン・ナティビダッド氏は「この多額の寄付金は、ピナツボ山噴火による火事や土砂崩れで移転を余儀なくされた100万もの人々の住宅のために役立てられることでしょう」と述べている。

フィリピンには現在、23万7,000人を越える会員があり、地元の教会指導者の指示の下に、被害者救済のために延べ6,000時間以上に及ぶ勤労奉仕を行ってきた。これを、輸送、器具、救急用品、衣服、被害者への直接の援助を含めて、金額に換算すると、13万ドルにも及ぶ額となる。

教会はこれまでもフィリピンに対し、地震や大型の台風による災害援助のために寄付をしてきている。〔「チャーチニュース」1991年9月28日付〕

十二使徒評議員会のM・ラッセル・バラード長老(中央左)から小切手を受け取るフランクリン・エブダリン次席(中央右)とフィリピン・アメリカ協会の会員(右)、左はバラード長老に同行したバーバリー・キャンベル姉妹。



PHOTO BY SCOTT STANDERS



# 神殿長, チェコスロバキア から召される

**政** 治的に支配され抑圧されていたチェコスロバキアの暗やみの時代に、イジー・スネデルフレル長老とオルガ夫人はチェコスロバキアの末日聖徒に希望と光をもたらすふたつの特質を備えていた。それは「信仰」と「勇気」である。

投獄される可能性を知りつつも、チェコスロバキアにおいて教会が正式に承認されるよう申請に努めたスネデルフレル兄弟について、モンソン長老は、「まさにアグリッパ王の前に臨むパウロのようでした」と語った。

モンソン副管長は教会が正式に承認を得るまでの困難な道のりを述べた。この正式な承認によりチェコスロバキアの会員は、警察の不意の介入や逮捕を恐れず堂々と集会が開けることになった。

1985年、十二使徒評議員会のラッセル・M・ネルソン長老と七十人第一定員会会員でありヨーロッパ地域会長会会長のハンス・B・リンガー長老は、教会の正式な承認を申請するためにチェコスロバキアの政府高官を訪ねた。1987年になって、ネルソン長老のようなアメリカ人でも、リンガー長老のようなスイス人でもなく、チェコスロバキア人の会員からでない限り正式な申請としては受け付けない、との回答があった。

モンソン副管長は次のように語った。「チェコスロバキア人の教会員に教会の承認を申請させることは、とても大きな危険をはらんでいました。当時チェコスロバキア人でありながら教会の指導者であると名乗りを上げることは、まさにみずから逮捕されに行くようなものだったからです。」

モンソン副管長はそのような危険を冒すことはだれにも依頼できないとの決定を、ほかの兄弟たちに伝えた。しかしネルソン長老とリンガー長老がス

ネデルフレル家を訪ね、政府の回答について伝えた際、スネデルフレル兄弟はみずからその危険な役を買って出たのである。

モンソン副管長は続けてこのように述べた。「ほんの少し間を置いたかと思うと、スネデルフレル兄弟は『私が行きましょう。私がしましょう』と言い、スネデルフレル姉妹の方を向いて『私たちは主のためなら何でもするよね。主のみ業は私たちの自由や命よりも大切なだから』と述べました。スネデルフレル兄弟姉妹は抱き合い、涙を浮かべて別れを告げました。兄弟は再び家に戻る確信もなく家を去ったのです。彼はまさにアグリッパ王の前に臨んだパウロのようでした。彼は権力を握る政府に対し、自分の信仰を表明し、チェコスロバキアにおける教会の正式な代表となりました。」

チャーチニュースとのインタビューの中で、スネデルフレル夫妻はその後のいきさつを詳しく語った。「1988年8月に申請書を提出してから1989年11月の革命まで、毎月秘密警察に尋問を受けました。そして共産党政権が倒れるまで絶えず政府の干渉を受けていました。チェコスロバキア人の教会員名簿、集会を開く場所、活動の内容などを明らかにするように要求されましたが、それらの情報を渡すことを一切拒否しました。」

またスネデルフレル兄弟は、数々の書類や手紙を書いたことにも触れている。「初めは、申請後3カ月以内に返事がもらえると聞いていましたが、いつまでたっても何の音沙汰おとぎさたもありません。再申請をし、また待ちました。そして、ある弁護士から書面で問い合わせた方がよい、との助言を受けました。それから3カ月間私は手紙を書き続けました。まるで手紙を毎日書いているかのようでした。」

そして1989年11月18日に政権が倒れたのです。臨時政府は私が申請をしていた宗教諮問委員会を解散させました。私は1989年12月と1990年1月に再び新政府に対して正式に申請をしました。2月の初めに新政府が成立し、また新たに申請をしました。」

承認は2月21日に下り、3月1日より有効となった。スネデルフレル神殿長夫妻はチェコスロバキアの変遷は主のみ手のうちにあった、と語っている。「1988年7月、チェコスロバキアの教会指導者は教会員に通常の第1安息日の断食に加えて、第3安息日も教会が承認されるために断食して祈るように呼び掛けました。私たちはすべての会員に教会の承認のためと、チェコスロバキアの自由のために祈るようお願いしました。この特別な断食を始めて以来、数カ月で状況が変わってきました」とスネデルフレル兄弟は述べた。

モンソン副管長は第二副管長に召される少し前の1985年に、スネデルフレル夫妻と対面しており、リンガー長老と共にプラハの彼らの家を訪ねたことがある。

「リンガー長老と私が家の中へ入ると、ほかのだれの家で見たよりも多く神殿の写真が飾ってありました。応接間には少なくとも12枚、そして隣の部屋にはそれ以上の写真が飾られていました。至る所に写真があるのです。スネデルフレル姉妹に『ご主人はとても神殿を愛しておられるようですね』と声をかけたところ、姉妹は当時まだあまり英語が話せませんでした。うなずいて『私もそうです』と答えられました。」

彼らの神殿に対する愛は宗教が抑圧されていた暗い時代にあって、模範となっていました。絶えず主を愛し、ためらうことなく勇敢に主に仕えたスネデルフレル夫妻は、現在ドイツのフライベルク神殿にいます。夫妻は同神殿で儀式が執り行なわれるようになって以来熱心に奉仕してきたヘンリー・J・ブルクハルト神殿長と介添役のイング・ブルクハルト姉妹の後任となりました。

スネデルフレル兄弟姉妹にこの神殿長と介添役の召しをお伝えする特権に恵まれたとき、彼らの神殿への愛と、

今回のセミナーで対面した3組の神殿長夫妻——

左からイジー・スネデルフレル神殿長とオルガ姉妹、H・ラモント・マトキン神殿長とリーア・P姉妹、友木・安保神殿長とヘレン姉妹。

トモスエ アボ



PHOTO BY RAVELL CALL

試練や困難の時代に彼らが示した信仰と勇気が思い出されました。そして『炎のランナー』という話に出てくる私の気に入っている言葉が心に浮かびました。『神をたたえる者を神もたたえん。』

これまで農業経済学などの分野で働いてきたスネデルフレル兄弟と姉妹は、神殿長セミナーのためソルトレークシティを訪問した際、「礼拝する自由の価値と重要性を知りました」と述べた。「30年間私たちはまったく集会を開くことができませんでした。私たちはチェコスロバキアの教会が崩壊寸前の状態だった1972年に教会の組織を再び一から作り直し始めました。常に秘密警察の不意の介入や逮捕を恐れていました。しかし結局一度も介入はありませんでした。1974年にチェコスロバキアのすべての聖徒のために大会を開きましたが、出席したのは11人の会員だけでした。ほかの会員は恐れて出席しなかったのです。このころは私たちにとってとても暗くつらい時期でした。」

スネデルフレル神殿長は1975年にチェコスロバキアの地方部長に召されている。

スネデルフレル姉妹は、今チェコスロバキアを訪れた新しい自由について次のように話している。「私たちは共に教会に集えることをとても喜んでい

ます。堂々と、また頻繁ひんぱんに集えることを、これまでずっと心から願ってきました。このつらい時期を乗り越えられたひけつは、互いに励まし合ったことです。1985年にモンソン長老が来られたとき、集会が開かれ、話をうかがいました。この集会のおかげで私たちは長い間頑張ってきたのです。42年間も待ったわけですが、たとえ自分たちの時代に起こらなくとも、あのひどい政権はいつか倒れ、自由が訪れ、教会はチェコスロバキアで発展する、と確信していました。この偉大な出来事をこの目で見ることができ感謝しています。もうつらかったことは思い出したくありません。終わったのですから。それよりこれから起こることを楽しみにしています。」

スネデルフレル神殿長は次のように述べている。「共産党政権は1989年11月17日に倒れましたが、その後宣教師を目にするようになって初めて、この国は本当に自由になったのだと感じました。最初の長老は1990年5月2日に到着しました。そのとき感じた喜びは言葉では言い尽くせません。私たちは心から宣教師を歓迎しました。あのような喜びを感じたことはかつてありませんでした。」

1990年5月に宣教師が到着して以来1990年12月31日までに102人が、さら

に今年に入り6月30日までに126人が、チェコスロバキアにおいてバプテスマを受けた。

ドイツ・フライベルク神殿の神殿長に召されたことについて、スネデルフレル神殿長(59歳)は次のように述べた。「世界中のすべての人は神の子供です。福音にあってはドイツ人、ロシア人、ポーランド人、チェコスロバキア人、ルーマニア人、ブルガリア人、ハンガリー人など、どのような国籍であろうと区別はありません。」

リンガー長老はチャーチニュースのインタビューに対し、次のように述べた。「スネデルフレル神殿長と姉妹がフライベルク神殿に召された知らせを耳にしたときはとても感激し、涙が込み上げてきました。この召しによって福音の扉はさらにスラブ民族すべてに対して開かれることでしょう。この召しが東欧における教会の発展に対してどのように重要なのか、どのような霊的意味を持つのかは、今はまだ明らかではありませんが、時がそれを明らかにしてくれることでしょう。ジョセフ・スミスに与えられた啓示の一節が心をよぎります。『完全なるわが福音、弱者たち単純なる者たちによりて世界のいやはてまでも宣べられ〔ん。〕』(教義と聖約1:23)」「チャーチニュース」1991年8月31日付)

# 「すべての会員は 宣教師である」

(デビッド・O・マッケイ大管長)

以下に紹介するのは大阪北ステーク部岡町ワード部の兄弟姉妹と、  
彼らの伝道を通して改宗したあるご家族の証である。

## 目も見えず、耳も聞こえ なかった小さな宣教師

大阪北ステーク部岡町ワード部  
フレーク・美香子

**全**世界の教会員は、専任であるなしにかかわらず毎日だれかとの出会い、愛を分かち合い、福音を聞く機会を与えている宣教師です。寺川家族が福音を聞ききっかけとなった出会いを作ってくれたのは、目も見えず、耳も聞こえなかった小さな宣教師、達也・Madison・Flake でした。

達也は、COFS(各症状の頭文字)シンドロームという世界で30人くらいしか報告されていない遺伝の病気で、見てわかる症状としては小頭症と四肢の奇形を持って生まれました。そのため目も見えず、耳も聞こえず、指一本動かすことも自分ではできませんでした。呼吸も自力ではできず、気管切開といっのどに穴を開けて小さな器具を入れる処置をし、そこから息をしていました。気管切開は機械を使ってたんを吸引したり、それに伴う特別なケアが必要なため、彼は生まれてそのまま退

院することなく1歳の誕生日を病院で迎えました。

いつ天に召されてもおかしくない状態の達也を家庭の中で世話してあげたいと私たち夫婦は思い始め、その旨をドクターに申し出ました。そのころには吸引やそのほかの処置も私たちだけでできるくらいに訓練されていたので、数回の外出と外泊を経験した後、退院が許可されました。

退院後は、たんをのどに詰ませたら命にかかわるのでいつも気が抜けな

かったし、日に6回のミルクや、薬、器具の消毒など病院で24時間していたことを私たちふたりだけでするので、精神的、体力的にも大変でした。しかし、家族で暮らせる喜びはどんな大変なことよりも勝っていました。

そんな生活にも慣れ始めると、私は達也を外に連れて歩くようになりました。でも、たんが詰まりそうになるたびに急いで家に帰っていたので、寺川姉妹には「忙しそうに歩く人」に見えたのでしょうか。寺川姉妹と初めて言葉を交わしたのは、達也を連れて献血に行ったときでした。達也のことを聞いてくださり、抱いてくださったのがきっかけでした。

2、3週間後、彼女は達也のために帽子をプレゼントしてくれました。前述したように小頭症のため合う帽子がなく、ハンカチを頭に掛けて歩いていたのです。お人形の頭に合わせさせて作ってくれたと聞いたときはとてもうれしく思いました。障害児に対して特別な目を向ける人も多い中で、彼女は何の躊躇もなく自然に「要るだろうと思ったから」と言ってくれました。

達也は退院8カ月後に突然天父のもとへ帰っていきました。

その後しばらく寺川姉妹には会えま



フレークご夫妻

せんでした。再会したとき、姉妹もお母様を亡くされたと聞いて驚きました。

それから私たちは寺川家族と家族同士でおつきあいさせていただくようになり、宣教師を紹介する機会に恵まれました。達也は寺川兄弟姉妹に直接福音を宣べ伝えたわけではありませんが、きっかけを作り、体全体でメッセージを投げかけ、専任宣教師に、岡町の教会員に、「あとをお願いします」とバトンを渡していったように思います。自分はいえば寺川姉妹のお母様に福音を伝えているかもしれません。

寺川兄弟姉妹がバプテスマを受けられたのは、偶然にも達也が召されてちょうど1年後(1989年11月3日亡)でした。バプテスマ会するとき、達也が満面の笑みをたたえて天父と共にその会を見守っているような気がしました。

達也が病気の体を持って生まれたことをつらいと思うこともありました。彼自身も耐えられない体の痛みをときどき感じていたことでしょう。しかし、彼は彼にしかできないことを1年10カ月という短い間に多く残してくれました。その小さな体全体で……。とても感謝しています。また、寺川家族、スネル姉妹、スペンサー姉妹、守谷家族、伊藤家族、岡町ワード部と豊中東ワード部の兄弟姉妹、専任宣教師に心から感謝しています。達也も皆さんのことを心から愛し、感謝していることと思います。「目も見えず、耳も聞こえなかったほくだけど、皆さんの愛と模範の助けによって現世においても伝道できました。ありがとう。」そして、「寺川姉妹、ほくは姉妹のやさしさを体で感じていましたよ。福音を受け入れてくれてありがとう。」そう言っているように思います。

今彼は自由に手足を動かし、目も耳も完全なままで天父のもとで伝道していることでしょう。また、私たち夫婦への会員伝道も忘れてはいません。毎日愛と励ましのメッセージを送り続けてくれています。「しっかり鉄の棒につかまって！ 終わりまで頑張らないとほくに会えないよ」と。

本当にありがとう。小さな宣教師。(フレーク・みかこ ワード部初等協会第一副会長)

## 達也・フレーク君に 始まった伝道

大阪北ステーク部岡町ワード部  
守谷歎二

**天**父のみもとから重い障害を背負ってフレーク家に送られてきた達也君はひとつのすばらしい使命を果たして、その短い生涯を終え、天父のみもとに帰っていきました。

お父さん、お母さんの笑顔も見えず、やさしい声にこたえることもできず、自由に歩き回ることも、だだをこねて甘えることもできなかった達也君。しかし、その達也君がきっかけで寺川姉妹はフレーク姉妹に出会い、宣教師を紹介され、イエス・キリストの福音を聞くようになったのです。寺川家族の家庭集会は岡町ワード部の各家庭で持たれ、後半の3回は私の家で行ないました。そしてダグラス・松森伝道部長も出席して始まった最後のレッスンは、私の生涯を通して二度とないすばらしいものとなりました。

姉妹宣教師の「寺川姉妹、開会のお祈りをお願いします」の言葉を受けて私が口をはさみ、「では閉会のお祈りは寺川兄弟ですね」と言いました。その場の雰囲気から私は当然レッスン中に寺川兄弟がバプテスマを受ける決心をされると思ったのです。

とても霊的なレッスンでした。しかし、「バプテスマを受けます」という言葉を寺川兄弟の口からついに聞けないうま終わりに近づきました。とっくにバプテスマの決心をなさっている寺川姉妹、伝道部長、姉妹宣教師たち、

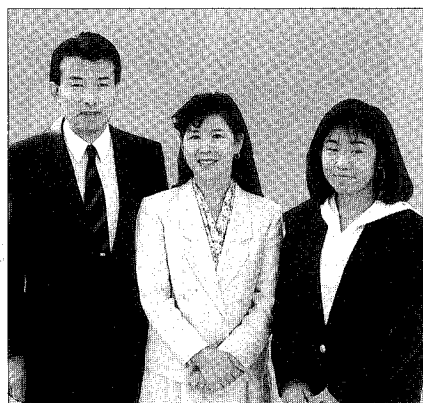
そして妻と私は少々残念な気持ちでした。閉会の賛美歌を忘れて、「では閉会のお祈りを……」という姉妹宣教師の言葉に、今回は駄目だったのかと思いました。ところが寺川兄弟の祈りが始まって数秒後でした。「天のお父様、私はバプテスマを受けることになりました。」歓喜、感動、うれしい、すごい！ そのときの私たちの喜びは、知る限りのどんな言葉も、辞書を引いて喜びの言葉をすべて並べたとしても、まだ足りないほど大きなものでした。「主よ感謝します。寺川兄弟の霊の目を開いてくださって。」まさに準備された家族の誕生でした。

達也君に注目した寺川姉妹がフレーク姉妹と出会い、そして宣教師と知り合ってから宣教師の力強さには目を見張るものがありました。ワード部の会員たちは彼らに引っ張られるように次から次へと家庭集会を開きました。私はその最後のひと押しをしたにすぎません。バプテスマを受けられた寺川兄弟姉妹以上に、そこに携わった人たちが多くの伝道のみたまを受けました。

また我が家で落ち着いて家庭集会ができたのは、このとき高校1年生だった私の娘が幼いふたりの娘さんの面倒をみていたからです。このことによって自分も協力でき、宣教師と触れ合う機会が増えて、娘が「将来伝道に出たい」と言い始めたときには、親ばかながら娘が光って見えました。娘が言葉どおりに伝道に出てくれることを願って、いつも心の中ではこう話し掛けているのです。「娘よ、二言はなしだぞ！」

私たち夫婦は恵まれて彼らのホームティーチャーに召されました。この8月のステーク部大会で寺川兄弟はメルキゼデク神権を付与され、寺川姉妹は扶助協会で断食についてのレッスンをみずから断食して準備されるなど、すばらしい会員になられました。近い将来神殿での家族の結び固めも予定されています。

「達也君、見てるかい？ 君の現世の時間はほんの少しだったけれど、君のしたことは偉大だったよ。」達也君



守谷ご家族

を通して実現した寺川兄弟姉妹の改宗は、関与したすべての宣教師やダグラス・松森伝道部長、そして会員たちに伝道のすばらしさをさらに強く教えてくれたのでした。(もりや・かんじ 第二副ステーク部長)

## 教会員になること

大阪北ステーク部岡町ワード部  
寺川晴美

**以**前は私たち家族は、教会とは無縁の生活をしていました。しかし、神様がいらっしゃることは信じていましたので、毎日のように神様に祈ったり、願い事をしたりしていました。それに、先祖を愛していますから、それを常に心に留め、良い行ないをしなければと思っていました。そのために、いろいろな宗教について学び、様々な教えを受けましたが、いつも少しずつ私の思っているものとは異なるという気がしてくるのでした。

一昨年のおんなときです。近所に住むひとりの女性を見掛けました。小さな赤ちゃんを抱いて忙しそうに歩くその人に、なぜか心引かれ、声を掛けようと思いがらできませんでした。ある日、自動車教習所へ行った帰り道、献血車で献血をすると、目の前にその親子がいるではありませんか。うれしくなって自然に声を掛けることができました。そしてその女性はフレックと名乗り、赤ちゃんは達也君という名前だと知りました。私は知り合いになれたことがうれしくて、神様に感謝し、小さな帽子を贈ることにしました。

新しい友達ができた喜びもつかの間、母が亡くなり、私は9月から翌年1月まで長崎の父のそばで暮らしました。とても悲しみが深く、母との思い出の場所から離れ難かったので、大阪へ戻るができなかったのです。父もまた、母への愛情が深かっただけに悲しみも強い様子でした。

しかし父は、夫に悪いかと私に帰るよう言いました。父をひとり残して大阪に帰り、日常の生活に戻り始めたころ、フレック姉妹と再会することができました。そして彼女も愛する子

供さんを亡くされたことを聞きました。互いに慰め合い、励まし合いました。

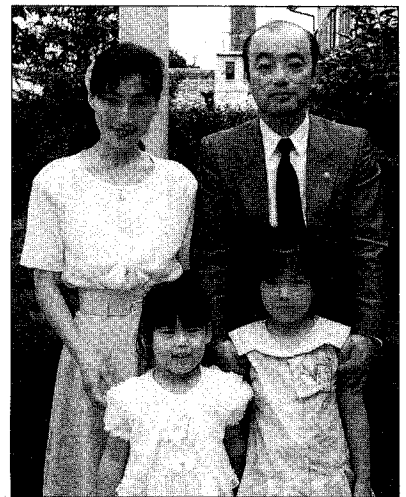
やがて彼女を通して多くの人と友達になりました。すばらしい長老たちや姉妹宣教師たち。彼らが本当に大好きになりました。彼らの愛あふれるメッセージに、今までに家族の大切さを学ぶことができました。いつもレッスンは教会員のお宅で行なわれました。そのたびに、とても温かい家庭とすばらしいお話に、心の清くなる思いがいたしました。そして、この教会こそ私の求めていた真実の教会だと知ることができました。神様に祈りました。「この道が神様への真実の道であるならば、家族でバプテスマを受けることができますように」と。そして、11月4日(日)午後6時、私は主人と共にバプテスマを受けることができました。まるで夢を見ているような良い心地でした。改宗まで導いてくれた教会員や宣教師に心から感謝しています。(てらかわ・はるみ ワード部扶助協会音楽指揮者)

## バプテスマへの決心

大阪北ステーク部岡町ワード部  
寺川良一

**最**初に宣教師に会って福音を聞いたとき、「あなたにとって何が一番大切ですか？」と質問され、「仕事です」と返事をしたのを覚えています。それまで、自分の人生にとって大切なものや、死後の世界については、あまり考えたことはありませんでした。しかし、宣教師たちから「救いの計画」などの教えを聞くうちに、仕事だけに明け暮れる毎日に疑問を持ち、家族の大切さについて、より深く考えるようになりました。

「知恵の言葉」について説明されたときは、取ってはならない飲み物の名前を聞いて、これは大変だと思いました。と言うのは、コーヒーとお酒は毎日飲んでいたので。宣教師との会話の中で、「バプテスマを受けますか？」という質問が何回か出てきましたが、あまり真剣には考えていませんでした。



寺川ご家族

レッスンも回を重ね、花屋敷ワード部と神戸ワード部のバプテスマ会に出席し、儀式については理解することができました。やがて、守谷兄弟よりお手紙をいただきました。そこにはバプテスマや什分の一の聖句と併せて、「バプテスマを受けるのは自由意志ですが、あまり深く考えずに、エイヤーと受けてみたら」と書いてありました。また、神戸ワード部でバプテスマ会を終えての帰途、松森伝道部長宅を訪問したとき、松森姉妹に「思い切って受けちゃいなさいよ」と言われ、一瞬ドキッとしたことがありました。それは、バプテスマ会に出席した直後で、何か霊的なものを感じていたからだと思います。昨年9月の第一安息日に、妻から11月4日にバプテスマを受けたい、できれば夫婦一緒にとの話がありました。これは大変なことになったなと思いました。私は、まずコーヒーをやめる方法を考えました。最終的には、飲まなければ飲まないで何とかなると思い、コーヒーの代わりにミルクを飲むようにしました。周りの人は、体の具合でも悪いのかと心配したようですが、自分の健康のためにミルクを飲んでいと説明しました。事実健康のために良いのですから、何の問題もありませんでした。次にお酒ですが、10月ごろより量を減らし始めました。若いころから多量に飲んでいたので、自分の一生の量はもう飲んでしまったと考えることにしました。そして、職場で「11月

からお酒をやめた」と宣言しました。

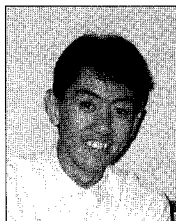
10月に入って、毎週バプテスマについて学びました。そのころ、妻が「11月4日に夫婦そろってバプテスマを受けたい」といつも宣教師に言っているのを知っていました。10月28日の安息日の夜、守谷兄弟のお宅で、松森伝道部長、姉妹宣教師と共にレッスンを受けました。それまでどうしても聖典について知識不足を強く感じたりして、バプテスマを受ける踏ん切りがつかなかったのですが、伝道部長の話、守谷兄弟の話を知っているうちに、なぜかわかりませんでした。突然吹っ切れたような気持ちになりました。そして、閉会の祈りを私がすることになり、私はその祈りの中で知らぬ間に「11月4日にバプテスマを受けます」と宣言していたのです。そのとき、何か気持ちがスーッと胸のつかえが下りたように感じました。

そして、11月4日、私は守谷兄弟によって、妻は宣教師によってバプテスマを受けました。聖なる儀式のとき、守谷兄弟はすぐそばに居るのに、祈りの声はなぜか遠いところから聞こえてくるのです。聖霊によって主のみ言葉が伝えられるときは、ちょうどこのようなものではないかと思いました。また、その後の挨拶手紙では、安らかな良い気持ちを感じ、これで教会員になれるという実感がわいてきました。それと同時に、これからは大変だという気持ちで一杯になりました。なぜなら、あまりにも聖典や教会のことについて知識がなかったからです。

バプテスマ会の証の中で、私は毎日祈ることと聖典を読むことを約束しました。小さなことかもしれませんが、私にとっては非常にむずかしいチャレンジでした。どうしても毎日の忙しさに負けそうになるのです。しかし、これからは毎日祈ることと聖典を読むことを日課として続けていく決心です。バプテスマ会のときには教会員の方々に大変お世話になり、本当に感謝しています。私たち家族は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として生まれ変わりました。この教会が真実であることを心から証いたします。(てらかわ・りょういち ワード部書記補助)

## 拾った本と先祖の夢

沖縄那覇ステーキ部  
浦添支部  
桃原保



**高**校2年の夏休み、アルバイトの帰りに道を歩いていると、ごみ置き場に捨てられていた黒っぽい表紙の本が目にとまりました。聖書だと思って拾い上げてみると、「モルモン経」という聞いたこともないタイトルが書いてあります。何の本だろうと思いつつページをめくってみると、キリストについて書いてある本だとわかりました。当時ある教会に通っていた私は、この本に非常に興味がわき、家に持ち帰って読み始めました。

ある日、私はモルモン経について神父に尋ねようと思ひ、教会へ行きました。しかし神父は私に、その本は読むべきではないと言ひ、鋭く非難しました。「キリストのことが書かれているのに、なぜ？」私はそれまで尊敬していた神父への失意とモルモン経を非難された悔しさで、その日から教会へ行かなくなりました。でもモルモン経は毎日少しずつ読んでいきました。

新学期が始まって学校から帰ってくると、机の上に置いてあったはずのモルモン経がなくなっていることに気がきました。机の下や本棚の裏など一生懸命に探しましたが、とうとう見付かりませんでした。まだ半分も読んでいなかったのに、残念でなりません。続きが読みたいと思ひながらも捜し出す方法がわからないので、いつかその本が見付かる日を待つかありませんでした。

半年ほど過ぎ、春休みに入って那覇の商店街を歩いていると前の方にふたりの外人が立っているのに気がきました。そのまま通り過ぎようとすると思ひに呼び止められ、英会話のちらしを渡されました。そのちらしで彼らが宣教師だと知り、興味がわいてきました。何となく恐れもあつて、そのふた

りから逃げるように離れました。そのころはもう一度教会へ行きたいと思ひ始めていたときだったので、以前通っていた教会へ行ってみました。その間も神父の言葉が強く頭にこだましながら。「モルモンは異端だ、そんな本は読むべきではない」と。

ところがその日以来、私は那覇へ出掛けるたびに同じ宣教師に会うようになり、すっかり顔を覚えられてしまいました。彼らに対して好感は持っていたものの、もう会いたくないとも思っていました。

そんなある日、私は居ても立ってもいられない気がして外出し、目的もなく那覇へ行きました。しかしその日に限ってバスの中で居眠りをし、いつも降りるバス停を乗り過してしまいました。慌ててバスを降りて引き返し、歩道橋を渡ろうとしてふと見上げると、宣教師らしい人が10人ぐらゐ、行き交う人に話し掛けています。少しためらいましたが、思い切って階段を上り足速に渡ろうとすると、顔なじみの宣教師が私に気付き、声を掛けてきました。「急いでいるから。」そう言つて振り切ろうとすると、彼はかばんの中から1冊の本を取り出しながら言ひました。「ちょっと待って、この本を紹介したいのです。」なんとそれはモルモン経でした。あれほど探しても見付からなかった本が、突然目の前に差し出されたのです。あまりのうれしさに言葉を失っていると、彼はモルモン経について簡単に説明し、プレゼントしてくれました。「この本について、また私たちの教会について、もっとよく知りたひと思ひませんか。」こう聞かれた私は即座に「知りたひ」と答え、次の日曜日に会う約束をしました。

日曜日の朝、緊張しながら教えられた教会へ行くと、彼らがドアの近くで私を待っていました。やがて会衆が賛美歌を歌ひ始めました。「なんて力強い歌なのだろう！」「主のみたまは火のごと燃え」でした。すばらしい賛美歌と友好的な人々との交わりの中で、何もかもが新鮮に見えた1日でした。

那覇で何回か福音の話を知り、私が住んでいる町の宣教師を紹介され、それから家の近くで話を聞くことが

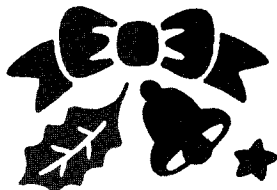
# 新教会堂の紹介

できました。そんなある日、家で昼寝をしていると、不思議な夢を見ました。その夢の中で、私は広くて丸い形をした壁の白く輝く部屋の中におり、たくさんの入り口には白い衣を着た人たちが、ずっと奥まで続いていました。その先頭には、亡くなった祖父と、戦死したというおじが立っていました。そしてふたりが私をじっと見詰めながら宙に浮いて目の前まで近寄って来たときに、目が覚めたのです。その日は宣教師と約束がある日だったので夕方教会へ行くと、死者の贖いについて話されました。私は昼間の夢を思い出し、どうしても関係がないとは思えませんでした。「でもどうしてふたりだけなのだろう、先祖は何百人といるのに。」

とは言え以前の教会ではたくさんの疑問があったのですが、そのほとんどは宣教師によって説明され、その教義や雰囲気が気に入った私は、それから1カ月後の誕生日にバプテスマを受けました。

2年後、私は先祖の身代わりの儀式を受けるために東京神宮に参入しました。系図は何枚か提出したのですが儀式はふたり分しか受けられないと言われ、その名前を見て驚きました。あの夢に現われたふたりだったのです。何とも言えぬうれしさが込み上げてきました。「2年前に見た夢がまさに成就しようとしている。」このときほど先祖を身近に感じたことはありませんでした。帰途に就いても感動はまだ胸の中に留まっていた。先祖が福音を受け入れたという確信を得たからです。

改宗から3年足らずの間にたくさんの経験や証を得ました。そのどれをとっても否定できるものではありません。それらの証は真実だからです。神は確かに実在し、私たちを導き、そして愛してくださっていることを知っています。この教会がまさに唯一、神の教会であることを証します。(とうばる・たもつ 初等協会教師)



大阪堺ステークス部河内長野支部  
(1990年7月12日完成)



鉄骨造2階建 建築面積：176.18㎡  
延床面積：348.05㎡ 敷地面積：661.00㎡  
所在地：大阪府河内長野市桐ヶ丘16-5 ☎0721-53-6087

仙台ステークス部長町ワード部  
(1990年8月1日完成)



鉄骨造2階建 建築面積：184.10㎡  
延床面積：348.55㎡ 敷地面積：720.00㎡  
所在地：宮城県仙台市青葉区上杉4丁目1-5 ☎022-248-9873

秋田地方部秋田支部  
(1990年8月10日完成)



木造平家建 建築面積：289.80㎡  
延床面積：283.15㎡ 敷地面積：794.40㎡  
所在地：秋田県秋田市東通仲町17 ☎0188-32-8112

## 10月に召された専任宣教師

第148期生 14人



後列左から1-8, 前列左から9-14

(名前)	(出身地)	(伝道地)
1. 糸数 <sup>いとかず</sup> ないび	沖縄那覇 S/沖縄 W	名古屋伝道部
2. 南 <sup>みなみ</sup> 吏 <sup>り</sup> 花 <sup>か</sup>	仙台 S/長町 W	岡山伝道部
3. 内田 <sup>うちだ</sup> ゆかり	東京西 S/甲府 W	神戸伝道部
4. 霜 <sup>しもむら</sup> 村 <sup>むら</sup> 純 <sup>じゆん</sup> 子 <sup>こ</sup>	長野 D/長野 B	神戸伝道部
5. 岩崎 <sup>いわさき</sup> 信 <sup>のぶ</sup> 子 <sup>こ</sup>	東京西 S/国立 W	札幌伝道部
6. 瀧沼 <sup>たかぬま</sup> 紗 <sup>さ</sup> 代 <sup>よ</sup> 子 <sup>こ</sup>	札幌 S/厚別 W	仙台伝道部
7. 川上 <sup>かわかみ</sup> 敦 <sup>あつ</sup> 子 <sup>こ</sup>	札幌西 S/室蘭 W	岡山伝道部
8. 野間 <sup>ののま</sup> 泉 <sup>いずみ</sup>	福岡 S/二日市 B	岡山伝道部
9. 中野 <sup>なかの</sup> 勝 <sup>かつ</sup> 之 <sup>ゆき</sup>	高松 D/高松 B	仙台伝道部
10. 渡辺 <sup>わたべ</sup> 利 <sup>とし</sup> 哉 <sup>や</sup>	東京北 S/川越 W	仙台伝道部
11. 古屋 <sup>ふるや</sup> 健 <sup>けん</sup> 二 <sup>に</sup>	東京西 S/甲府 W	沖縄伝道部
12. 宮城 <sup>みやぎ</sup> 拓 <sup>たく</sup> 夫 <sup>おと</sup>	東京東 S/八千代 W	福岡伝道部
13. 堀口 <sup>ほりぐち</sup> 智 <sup>ち</sup> 司 <sup>し</sup>	名古屋西 S/一宮 W	大阪伝道部
14. 大城 <sup>おおい</sup> 朝 <sup>あさ</sup> 雄 <sup>おと</sup>	沖縄那覇 S/首里 W	名古屋伝道部

S: ステーキ部, D: 地方部, W: ワード部, B: 支部

## 役員の内命

1991年9月7日から1991年10月21日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の内命(敬称略)

- 札幌西ステーキ部藻岩ワード部  
新監督: 内海宏一郎  
(前任者: 坂本一彦)
- 盛岡地方部宮古支部  
新支部長: 盛田耕司  
(前任者: 春山篤)
- 名古屋西ステーキ部大垣支部  
新支部長: 高木覚  
(前任者: 川瀬勉)
- 北陸地方部富山支部  
新支部長: 中村栄吉  
(前任者: 荻原洋)
- 広島ステーキ部安古市支部  
新支部長: 河合豊治  
(前任者: 長沼雅仁)

- 熊本地方部大分支部  
新支部長: 岡田豊章  
(前任者: 菅原宏)
- 熊本地方部白川支部  
新支部長: 野田誠一  
(前任者: 小笹康正)

## 新ユニット

- 名古屋伝道部富山地方部  
(北陸地方部から分割)  
地方部長: 荻原洋
- 大阪伝道部名張支部  
支部長: 戸村正信  
(1991年9月29日, 富山地方部が組織されたことにより, 日本地域のステーキ部数は22, 地方部数は16になりました)

## 編集室から

皆さんの原稿を  
募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など), 本

誌を読まれたの感想文などをお送りください。

▶これまでローカルページでは証の著者の生年を記載しておりましたが, 今後は記載しないことになりました。ただし編集作業の参考のため, 投稿の際には従来どおり連絡先(電話番号), 教会での責任(役職名)に併せ, 生年を記入してお送りください。

▶お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また, 掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。

▶あて先: 〒150 東京都渋谷区桜丘町28-8 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室

☎03(5489)9251



# 10月に召された専任宣教師

第148期生 14人



後列左から1-8, 前列左から9-14

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 糸数 ないび	沖縄那覇 S/沖縄 W	名古屋伝道部
2. 南 吏 花	仙台 S/長町 W	岡山伝道部
3. 内田 ゆかり	東京西 S/甲府 W	神戸伝道部
4. 霜 村 純子	長野 D/長野 B	神戸伝道部
5. 岩 崎 信子	東京西 S/国立 W	札幌伝道部
6. 瀧 沼 紗代	札幌 S/厚別 W	仙台伝道部
7. 川 上 敦子	札幌西 S/室蘭 W	岡山伝道部
8. 野 間 泉	福岡 S/二日市 B	岡山伝道部
9. 中野 勝之	高松 D/高松 B	仙台伝道部
10. 渡 辺 利哉	東京北 S/川越 W	仙台伝道部
11. 古 屋 健二	東京西 S/甲府 W	沖縄伝道部
12. 宮 城 拓夫	東京東 S/八千代 W	福岡伝道部
13. 堀 口 智司	名古屋西 S/一宮 W	大阪伝道部
14. 大 城 朝雄	沖縄那覇 S/首里 W	名古屋伝道部

S:ステーク部, D:地方部, W:ワード部, B:支部

## 役員の新任命

1991年9月7日から1991年10月21日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の新任命(敬称略)

- 札幌西ステーク部藻岩ワード部  
新監督:内海宏一郎  
(前任者:坂本一彦)
- 盛岡地方部宮古支部  
新支部長:盛田耕司  
(前任者:春山篤)
- 名古屋西ステーク部大垣支部  
新支部長:高木覚  
(前任者:川瀬勉)
- 北陸地方部富山支部  
新支部長:中村栄吉  
(前任者:荻原洋)
- 広島ステーク部安古市支部  
新支部長:河合豊治  
(前任者:長沼雅仁)
- 熊本地方部大分支部  
新支部長:岡田豊章  
(前任者:菅原宏)
- 熊本地方部白川支部  
新支部長:野田誠一  
(前任者:小笹康正)

## 新ユニット

- 名古屋伝道部富山地方部  
(北陸地方部から分割)  
地方部長:荻原洋
- 大阪伝道部名張支部  
支部長:戸村正信  
(1991年9月29日,富山地方部が組織されたことにより,日本地域のステーク部数は22,地方部数は16になりました)

### 編集室から

## 皆さんの原稿を募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など),本

誌を読まれたの感想文などをお送りください。

▶これまでローカルページでは証の著者の生年を記載しておりましたが,今後は記載しないことになりました。ただし編集作業の参考のため,投稿の際には従来どおり連絡先(電話番号),教会での責任(役職名)に併せ,生年を記入してお送りください。

▶お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また,掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。

▶あて先:〒150 東京都渋谷区桜丘町28-8 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室

☎03(5489)9251